

もものみ。

守田慎之介

登場人物

市井 直子 この家の父の弟の長女。両親を亡くし、この家に引き取られた。
市井 豊 この家の長男。昨年、父が他界し市井果樹園を受け継ぐ。未婚。
市井 実 この家の長女。会社員。離婚歴がある。子どもはいない。
市井 大地 この家の次男。フリーター。結婚を考えている彼女がいる。
市井 敏子 この家の母。この家に嫁いできた。

佐々木 吉彦 豊の高校からの友人。未婚。

倉田 京子 大地の彼女。同じ職場で働く。

渡辺 小春 市井家の近所に住む渡辺家の長女。祖父の代から関わりが深い。

舞台

福岡県で果樹園（市井果樹園）を営んでいる家族が住む、家の居間。
上手側に縁側があり、その奥にはこの地では珍しくない果物を直売する小屋がある。
下手側に襖があつて、その先からは果樹園を眺めることができる。
部屋の置物や家具などが雑に配置されており、そこには祖父の代の面影が残る。
また、果樹園を営んでいるらしい、コンテナや麦わら帽子なども見える。

部屋を出ると、ふすまで区切られただけの部屋が数多くあり、
どの部屋も綺麗とはいえないが、解放的な、田舎によく見られる家である。

0.

けたたましさが薄れる、晩夏のセミの声。
奥の直売所から声が聞こえる。

声1 じゃあ、3個もらおうかな。

敏子 はい。ありがとうございます。

声1 どれもいいね。

敏子 そうよ。うちはね、変わらん美味しさやけね。

声1 ねえ。どうなるかっと思いいったけど。ねえ。

豊 いやいや。

部屋に、作業着姿の大地が入って来る。

敏子 いいやつ、入れときますね。

豊 どれもいいやつちゃ。

声1 ねえ、ホントよね。

豊 あ、すいません。

敏子 あ、豊。お釣り。

豊 ああ。ちよつと待って下さいね。

敏子 すいません。

声1 ゆっくりでいいけね。

直売所の方から豊が入って来る。

豊 おう。

大地 おはよ。

豊 夜勤？

大地 そう。あ、おかんは？

豊 売り場。

大地 ああ。

豊 あ、お客さんおるけ。

大地 分かつとつちゃ。

豊が部屋を出て行く。

大地はうちわを拾い、直売所に入るかどうか悩んでいる。

声2 こんにちは。

敏子 あ、こんにちは。

声1 あら、こんにちは。
声2 あんたも来とったん。
声1 そら来るよ。
敏子 いつも、ありがとね。
声2 もう今年も終わりやね。
敏子 ホント、あつと言っ間ちゃ。
声1 これ食べんと、ねえ。
声2 ね、夏が終わらんけ。
敏子 毎年ありがとございます。

と、そこに農作業姿の直子が入って来る。

直子 あちー。
大地 そら、暑かる。
直子 あ、おはよ。
大地 おはよ。
直子 ユタくんは？
大地 ん？今、そっち行ったけど。
直子 マジか。
大地 忙しそうやな。
直子 だって今日までやし。
大地 今日まで？
直子 31日やもん。
大地 31か。
直子 そうよ。
大地 わー、日付感覚がないわ。
直子 よう仕事が勤まるわ。
大地 曜日で動きよるからね、俺は。
直子 ああ、そう。
大地 今日は月曜。
直子 知らんけど。
大地 しゃべくりあるし。
直子 知らんちゃ。
大地 夜更かしあるし。
直子 夜勤やろ？
大地 そう、夜勤。
直子 うちわ貸して。
大地 ああ。

大地、直子にうちわを渡す。

直子（扇ぎ）ああー。

と、豊が入って来る。

豊 おう。どした？

直子 残りどうしたらいい？

豊 あー、とりあえず小屋入れとって。

直子 はいはい。

大地 兄貴。

豊 どした？

大地 飯は？

豊 飯？

大地 昼飯、何食った？

豊 後でいい？

大地 あ、うん。

豊が直売所の方へ行く。

直子 冷蔵庫やないかな？

大地 ん？

直子 ご飯。

大地 そう。

直子 あたしもお腹空いて来たー。

大地 昼飯食ってないん？

直子 食べた。

大地 食ったんかい。

直子が部屋を出て行く。

大地は部屋にあるカレンダーを眺めている。

大地 あ、うちわ。

と、部屋に敏子が入って来て、

敏子 うちわ？

大地 おはよ。

敏子 おはよ。うちわ、その辺にあるやろ。

大地 あったんやけどね。

敏子 自分で探し。忙しんやけ。

大地 新聞？

敏子 ケチいけ、あのおばさん。

大地 ん？

敏子 あと1個買えば、ちゃんと箱に納まるっち言っんに。

大地 そいうね。

敏子 声が大きいちや。

大地 そいう、しか言ってないけど。

敏子 痛みやすいっち言っんに。

大地 あ、昼飯さ、

と、外から声が聞こえる。

声 ごめんください。

敏子 はい。

声 クロネコです。

敏子 はい。(直売所の方に) 豊ー。

豊 何？

敏子 クロネコ。

豊 は？

敏子は直売所の方に戻り、

敏子 クロネコ。

豊 直ー。

敏子 おらんよ。

大地 小屋行った。

豊 もう。

豊が部屋に入って来て、

豊 お前行けや。

大地 分からんもん。

豊 箱渡すだけやろうが。

大地 分からんちや。

豊 はーい。

豊は部屋を出て行く。

大地はポケットから煙草を取り出す。

直売所からは敏子とおばちゃん達の話し声。

敏子 今年もありがとうございました。また、来年お願いしますねー。

勝手口からは豊とおじさんの話し声。

豊 はい、また来年お願いします。

遠くから小屋の中で作業をする音。

大地 終わりますねー。今年も。

煙草に火をつけ、部屋を出て行く。

しばらくすると、豊が部屋に入って来て、カレンダーを破る。

8月だったカレンダーは、9月になる。

部屋には直子と小春がいる。

直子はノートを手にして、小春の前に立っている。

直子 リリリ、リーリー、リーリー、チキチキチキ、ブーン、チチチチチ、ブーン、
リリリリリ、チチチ、カーンカーンカーンカーン、リリリ、リーリー、ガタンガタンガ
タン、ガタンガタンガタン、リリリリリ、チチチ、リーリーリー、こんな秋の風景。

小春 おー。(拍手)

直子 どう？

小春 いい。

直子 やろ？

小春 うん、いい。何て言うか、いい。

直子 いいしか言っていないけど。

小春 素敵。

直子 素敵やろ？

小春 素敵。

直子 どうやって書いたか聞きたい？

小春 え？

直子 この詩。

小春 し？

直子 詩。ポエム。ポエムっち言ったら、何かあれやけど。

小春 うん、聞きたい。

直子 あのね、すごい単純なんよ。簡単。

小春 うん。

直子 こうね、横になるやん？(横になろうとする)

小春 うん。(小春は横になろうとする)

直子 あ、ならんでいい、ならんでいい。

小春 ああ。

直子 今、説明しようけ。

小春 あ、そっか。

直子 今はちょっと聞いて。後でチャンスあげるけ。

小春 うん、ありがと。

直子 こう、横になるやん。

小春 うん。

直子 でね、静かにするん。静かにしてね。

小春 うん。

家のそばで犬の鳴く声。

小春 コロちゃーん。静かにして。
直子 あ、いいちゃ、いいちゃ。コロも風景やけ。
小春 そうなん？
直子 この風景が大事なん。
小春 ああ。
直子 小春が行ったら、余計吠えるし。
小春 そうやね。
直子 このね、コロの声も、あと、遠くの電車の音とか、豆腐屋の笛も、全部今の風景。
小春 うん。
直子 こう静かにしとったらさ、耳に音が入って来るやん。
小春 入って来る。
直子 ・・・（急に起き上がり）そしたら、一気に紙にドバババって。
小春 書く。
直子 そう、一気に書く。ホントは、もうちょっと長く聞くんやけど、一気に書く。
小春 そしたら、素敵なおエムになる。
直子 おエムつち言ったら、何かちょっと恥ずかしいけど、このー、詩からさ、風景？情景が見えて来るやろ？
小春 来る。
直子 ね？
小春 うん。
直子 じゃあさ、どんな風景が見えた？
小春 え？
直子 今。聞いて。
小春 風景？
直子 え？見えたやろ？風景。
小春 あ、うん。
直子 どの？
小春 どのな・・・秋になった風景。
直子 いや、それは言っただけ。あたしが。最後。こんな秋の風景っち。
小春 うん。
直子 だけ、こんな音がしたとか。こんな気持ちになったとか。
小春 ああ。
直子 こんな絵が見えたとか、こんな時間に感じたとか。こんな気持ちになったとか。あ、気持ちは言っただか。あと、こんな、匂いを感じた、とか。
小春 におい。
直子 ああ、例えばよ。
小春 におい。

直子 あ、いや、感じんかったんなら良んやけど。
小春 秋の匂いがした。
直子 感じた？
小春 感じた。
直子 秋の風景っち言ったけやなくて？あたしが。
小春 違う。
直子 どんな匂いやった？
小春 桃の匂いがした。
直子 桃？

と、そこに敏子が桃を3つ持ち、入って来る。

敏子 ああ、いらっしやい。
小春 お邪魔してます。
直子 あ、桃。
敏子 え？桃やけど。
直子 これの匂いなんやないん？
小春 違う、違う。
敏子 ん？匂いする？
直子 うちらはせんよ。鼻、馬鹿になっとるけ。
敏子 馬鹿とか言わんよ。
直子 これやろ？
小春 違うって。
敏子 これとか言わんの。(小春に) ねえ？
小春 すいません。
敏子 お供えするんやけ。
直子 だって、桃は夏よ？
小春 そうだけど。
直子 (ノートを見せて) これ、秋よ。
小春 だって感じたもん。
直子 もんとか言われたら、何も言えんわ。
敏子 何の話をしよんよ。

敏子は神棚に桃を供える。

直子 何っち、秋の話？
敏子 秋？
直子 秋の音を聞かせよったん。

敏子 何、それ。
直子 何それっち言われても、それ以上ないけど。
敏子 ごめんね、そんなんに付き合わせて。
小春 いえ。
直子 そんなんっち何なん。
敏子 ねえ。変な遊びに付き合わされて。
直子 全然変やないし。ねえ。
小春 うん。
直子 耳に入って来る音を文字にして、詩を作るっち言う、崇高な遊びよ。
敏子 崇高？
直子 崇高よ。
敏子 どこ覚えて来たんよ、そんな遊び。
直子 別にいいやん。
敏子 よう分からんテレビでやりよったんやろ。
直子 違うし。
小春 部屋の掃除してたら、出て来たんだよね？
敏子 部屋？
直子 ああ、まあ。
敏子 部屋の掃除しよん？
直子 いいやん、しても。
敏子 どういう風の吹き回し？
直子 あたしだって、そういう時もあるん。
敏子 へえ。
直子 ……何？
敏子 別に。
小春 それで、ね？私が聞きたいって言ったんです。
敏子 小春ちゃんは優しいね。
小春 優しいとかじゃなくて。
直子 そうちゃ。小春が聞きたいっち言ったんやけ。
敏子 あれ？
直子 何？
敏子 小春ちゃんが年上やなかったっけ？
直子 そうやけど。
敏子 呼び捨てしよん？
直子 え、今更？
敏子 ずっと呼び捨てやった？
直子 そうよ。
敏子 2年前から？

直子 うん。

敏子 じゃあ、気付かんかったわ。

小春 あ、大丈夫です。

敏子 年上なんやけ、小春さんっち言わんと。

直子 いいやん、今更。

敏子 良くないと思うなー。

小春 いいんです。

直子 いいっち言いようやん。最初からそうやったんやもん。

敏子 もんとか言われたら、何も言えんわ。

直子 年下っち思いよったけさ、最初。

敏子 そうね。

小春 すいません。

敏子 小春ちゃんは悪くないんよ。こう。ピチ。ピチしとるけ。

小春 ピチ。ピチ・・・。

直子 そしたら、途中で年上っち分かったけど、何か、呼び方変えるのなーっち。

敏子 ああ。

直子 年上と分かった瞬間、小春さんっち、何か媚とる感じがするやん？

敏子 媚びるとかやないやろうけど。

小春 全然いいんです。

敏子 小春ちゃんがいいなら、いいんやけどね。

直子 そういう関係なんよ。

敏子 そういう。

直子 ね？

小春 うん。直ちゃんとは友達なんで。全然。

敏子 小春ちゃんは直ちゃんっち呼びよるやん。

直子 もう、いいやん。

と、そこに豊が入って来る。

豊 何、騒ぎよんよ。

小春 あ、お邪魔してます。

豊 ああ、こんにちは。

小春 お邪魔してます。

豊 ああ、うん。

敏子 持ってってくれた？

豊 持ってた。

敏子 うん。

豊 (ボソリと) こっちにも供えるんやけ。

直子 お墓行って来たん？

豊 行けっち言うけ。

敏子 どっちにおるか分からんやろ？

豊 そうやね。

小春 おいちゃん？

直子 そ。

敏子 味見してもらわんと。

豊 最初のも供えたやん。

敏子 最初のと、最後のを、ちゃんと食べてもらわんと。

豊 はいはい。

敏子 そうしよったやろ？去年。

豊 今年は俺がしよるちゃ。

敏子 あんたはあんた。お父さんはお父さん。

豊 別にいいけど。

直子 桃は売るほどあるけね。

豊 売るために作りよんちゃ。

敏子 ほら、豊。直ちゃんも。作ったんやけ。

直子 はい。

三人、神棚に祈る。とりあえず、小春もやっている。

敏子 来年も豊作やったらいいね。

豊 そうね。

敏子 ちゃんと祈った？

豊 親父にそんな力ないやろうけど。

直子 ないない。

敏子 オオカムヅミ様がおるけ。ちゃんと。

豊 オオカムヅミ様ねー。

直子 あら？小春もやりよったん？

小春 え？うん。

直子 別にいいのに。

小春 ここにおったけ、何となく。

直子 何となくするよね、こついうの。

敏子 さ、ご飯の準備でもしますかね。

豊 瓶詰め終わった？

敏子 終わりました。

豊 そっか。

小春 美味しいよね。

直子 ん？

小春 瓶詰め。直ちゃんとの。

直子 そうね。

敏子 あ、帰り渡してもいい？

小春 え？

敏子 今日、持って行くこうっち思いよったけ。

小春 うちに？

敏子 小春ちゃんそこには、お米とか色々もらいよるけね。

小春 すいません。

豊 はー、いよいよ、終わりやな。

敏子 終わりですよ。

直子 手伝おうか？

敏子 だけ、終わったっちゃ。

直子 いや、ご飯よ。

敏子 小春ちゃんがおるやろ？

直子 ああ。

小春 すいません。

敏子 違う違う。直ちゃんは遊びよっていいこと。あの、変なやつ。

直子 変やないちゃ。

敏子が部屋を出て行く。

直子 全然変やないんにね？

小春 うん。

豊 何しよったん？

直子 えっとね・・・もう説明疲れた。

豊 あ、そう。

直子 じゃあ、小春もやってみようか。

小春 今から？

直子 やり方は分かったやろ？

小春 分かったけど。

直子 けど？

小春 あの、何て言うか、

直子 ん？

小春 こう、人の家で寝転ぶってゆうのは・・・

直子 いや、さっき、

小春 (遮るように) ちょっと、何か。

直子 なら、応用編からになるけど、いい？

小春 応用編。

直子 一個難しいやつ。

小春 うん、頑張る。

直子 じゃあ、今日の朝のことを思い出して下さい。

小春 朝？

直子 そう。今日の朝。

小春 ー。

直子は話しながら、ノートを手にし、ボールペンを探している。

豊 何の遊び？

直子 起きてから、何したかなー、みたいな。

小春 うん。

直子 そんな時、色々耳に音が入って来たと思うんよね？

小春 どうだったかな。

直子 意識してないと、ね、なかなか難しいけど、多分したはずなんよ。

小春 してたと思う。

直子 それを思い出して、どんな音がしたか想像してみましょう。

直子はボールペンを手にして、

豊 カウンセリング？

直子 違うちゃ、うるさいね。思い出しよんやけ。

豊 いや、何か、ちょっと怖いけ。

直子 怖くないちゃ、崇高な遊びなんやけ。

豊 崇高？

直子 崇高。

豊 いや、やっぱ、何か怖いわ。

小春 思い出した。

直子 はい、じゃあ、それをバババと書き出します。

直子はノートとボールペンを小春に渡す。

小春は一心不乱にノートに書き出す。

直子 最後は・・・そうやな、こんな私の朝の風景にしようか。

小春 分かった。

豊 よう分からんわ。

小春 部屋の掃除してたら、見つけた(らしくて)、

直子 (遮って) はい、小春はペンを動かす。
小春 あ、ごめん。
豊 掃除？直が？
直子 何なん、みんな。あたしが掃除したら変？
豊 変。
直子 何でねちゃ。
豊 いや、急に掃除で。
直子 掃除ぐらいするちゃ。
豊 誰にも言われんで。年末でもなく。
直子 ダメなん？したら。
豊 いや、してもいいんやけど。
直子 言われんでもやるのが大人やろ。
豊 (鼻で笑い) 大人。
直子 大人よ。立派な。
豊 そやな。立派に大きくなりよるな。丸まると。
直子 まるで桃みたいに。
豊 あ、俺が言いたかったんに。
直子 やるんか？
豊 やらんわ。
直子 何なん、その果樹園ジヨーク。
豊 果樹園ジヨークっち何か。
直子 もうユタくんもおいちちゃんやね。
豊 おいちちゃんよ、俺も。
直子 結婚もせんで。
豊 お、やるんか？
直子 やらんし。
小春 直ちゃん。
直子 ん？
小春 あの、どこまで書いたらいいんかね？
直子 ー、(覗き込んで) もうちよっと書いてみようか。
小春 分かった。
直子 ・・よう同じようなこと言いよったよ。
豊 ん？
直子 果樹園ジヨーク。
豊 ああ、親父？
直子 そう？
豊 そうやったっけな？
直子 そうやったっちゃ。

豊 あー、イメージないな。

直子 息子の前やけね。あるんやない？威厳みたいな。

豊 そんなもん？

直子 (おじさんで)直ちゃんは、本当。ピッチ。ピチ。ピーチやなー。はあ？

豊 全然知らんわ。

直子 だいぶ酔とったけど。ベロンベロン。

豊 ふーん。

外で犬の鳴き声が聞こえる。

直子 (小春に) それぐらいでいいんやない？

小春 いい？

直子 最後に、こんな私の朝の風景っち書いて、

小春 うん。

豊 あんま見たことなかったな。

直子 ん？

豊 ベロンベロンになった親父。

直子 ふーん。

豊 酔っ払っとったのは、まあ、あれやけど。

直子 たまにね。ホント、たまに。

小春 出来た。

直子 よし、じゃあ、読んでみようか。

小春 うん。

直子 何か、なるべくそんな時の音の雰囲気とかも出してみようか。

小春 分かった。

直子 渡辺小春さんによります、朝の風景です。どうぞ。

小春 ガシャーン、バサっ、バサバサ、トン、タッタッタッタ、ガチャ、ギー、ギー、バタン、タッタッタッタ、トントントントントントントントントントント、もっお母さん、こうなるんだから何もしなくて(いいですから)

直子 あ、ごめん。

小春 ん？

直子 あ、えっと、言葉はなしで。

小春 え？

直子 言い忘れとった。音だけ。

小春 ああ。

直子 聞こえた音だけの世界やけ。

小春 ああ、そうなんだ。全部書くんだと、

直子 うん、音だけで大丈夫。

小春 じゃあ、えっと、ニヤー、ニヤーはいい？

直子 あ、うん。ニヤーはいいよ。

小春 ニヤー、ニヤー、カチャカチャカチャ、ガチャン、カチャカチャ、テク、テク、テク、スー、スー、パタン、ニヤー、ニヤー、カチャカチャ、ガチャン、こんな私の朝の風景。

二人 ……。

小春 どう？

直子 おー。(拍手)

豊 (とりあえず拍手)

直子 なるほどね。今日の朝はこんな感じやったんやね？

小春 こういう日もあるかな。

直子 ああ。

豊 質問コーナーは？

直子 そんなコーナーないちゃ。

豊 え、何なん、これ？

直子 朝の風景。

豊 いや、そう思っただけよ。

直子 こう、気軽に詩を作ってみよーっち言う、

小春 小学校の頃、やってたんだよね？

直子 ああ、まあ。

豊 え？こんなしよったん？

直子 いや、あたしの聞いてんっちや。秋の風景やけ。

小春 間違ってた？私の。

直子 いや、全然間違っないんよ。全然。

小春 良かった。

直子 ちよっと、何て言っか、思った感じのと違っただっち言っか、違っくいんやけどね。それを楽しむものなんやけ。

小春 朝からお皿が割れて。

豊 ああ。

直子 あるある。たまに。

と、直売所の方からドアを叩く音が聞こえる。

豊 ん？

直子 売り場？

豊 そっぴたい。

小春 お客さん？

豊 売るもんないからな。

直子 ないない。

豊 たまにおるんちや。季節感のない、

直子 張り紙は？

豊 しとるはずなんやけどね。はい。

豊が直売所の方へ行く。

小春 夏だもんね。

直子 ん？

小春 桃。

直子 そうよ。

小春 こっちに来て、知ったけど。私も。

直子 年がら年中あるけね、今は。

豊 どしたん？

実 どしたんっち何なん。

豊 ああ。

直子が立ち上がり、様子を見に行こうとする。

実 ただいま。

(○と●は同時に進みます)

○豊・・・鍵閉まっとうの分かつとろうが。

○実 ん？

○豊 こっち。

○実 もう9月やけね。

○豊 分かつとんなら、

○実 駅からこっちの方が近いやん。

○豊 変わらんわ。

○実 全然変わるし。土やし。

○豊 よう分からんわ。

○実 転がらんの、これ。

○豊 おかんがおったけやろ。

○実 転がらんのちや。

○豊 どうせ顔合わせるんやけ。

○実 うるせえ。

○豊 わざわざ、うるせえ家に帰って来たんやろうが。

○実 いいやろ。自家(ち)なんやけ。

●小春 実ちゃん？

- 直子 みたい。
- 小春 実ちゃんって、たしか彼氏さんと。
- 直子 うん、同棲しよる。
- 小春 ああ。

直子が直売所を覗き込み、

- 直子 でか。荷物。
- 小春 荷物。
- 直子 また帰って来たっばいな。
- 小春 また？
- 直子 小春は知らんのかね？
- 小春 何を？
- 直子 実ちゃんの駆け落ち癖。
- 小春 え、何それ。
- 直子 あ。

直子が部屋に戻って来て、寝転ぶ。
と、そこにキャリーバッグを持った実と、豊が入って来る。

- 実 ああ。
- 直子 ああ、実ちゃんやん。お客さんかと思った。
- 実 はいはい。
- 小春 お邪魔してます。
- 実 こんにちは。
- 小春 (ペコリと頭を下げる)
- 直子 大きい荷物やね。
- 実 ごめんね、帰って来て。
- 直子 何でごめんなん。
- 実 何となく。
- 直子 別に。

豊が部屋を出ようとする。

- 実 どこ行くん？
- 豊 どこっち、
- 実 おかん？
- 豊 そうよ。

実 いや・・・

豊が部屋を出て行く。

実 絶対、嫌味言ってくるやん。

直子 言うかもね。

実 かも、やないちや。

直子 でも、それぐらいよ。

実 それが嫌なん。

直子 でも、ねえ、自分で蒔いたあれやし。

実 別に好きで蒔いとらんし。

直子 すぐ好きになるけ、こうなるんやん。

実 好きになるのは、仕方ないやん。なるんやけ。

直子 なったけっち言っても、

実 もう、おかんみたいなこと言わんでちや。

直子 別に・・・

実 (キャリーバッグを持ち) 後でどうせ言われるんやけ。

直子 どこ行くん？

実 部屋。

直子 おった方がいいんやない？

実 荷物置くだけちや。

実が部屋を出て行く。

小春 大丈夫？

直子 いつものことやけ。ユタ君も言いよったけど。

小春 いや、何ていうか・・・

直子 結婚したのは知っとる？

小春 ああ。

直子 7、8年前？やったかな。

小春 何となく。お母さんに。

直子 ちゃんと回るよね、そついう話っち。

小春 ごめん。

直子 何で。そついうもんやし。

小春 うん。

直子 回るんよ、ちゃんと。

小春 すぐ戻って来たんでしょ？

直子 すぐ。ホントすぐ。盛大に披露宴して、1年ぐらい。

小春 それは、ちょっと、ね。

直子 あたしは別にあれやったけど。ねえ。

小春 まあ。

直子 うん。

小春 あ、で、大丈夫？

直子 だけ、大丈夫っちゃ。

小春 部屋。

直子 部屋？

小春 直ちゃんと一緒の部屋じゃ（なかったっけ？）

直子 あ、ヤバイ。ハンパなく散らかってる。

小春 よね？

直子 もう早、言ってよ。

小春 ごめん。

直子が部屋を飛び出して行く。

小春 あ、私帰ろうか？・・（ホツリと）どうしよ。

二階ではドタバタと音が聞こえる。

一人残された小春は、手持ち無沙汰にしていたが、ノートに何かを書き出すと、そこに豊が入って来る。

豊 あれ？

小春 あ、すみません。

豊 いや、一人？

小春 一人ですみません。

豊 いいんやけどね、直は？

小春 実ちゃんと部屋に。

豊 二人で？

小春 二人でというか、別々で、でも同じ部屋にいて、二人でいます。いると思います。

豊 ああ。

小春 すいません。

豊 もう。逃げんなや、みんな。面倒くさい。

小春 逃げる。

豊 すぐ、逃げるんちゃ。うちのやつら。

小春 ああ。

豊 似たもん同士っち言うか。

小春 どうですかね。

豊 あ、ごめんね。こんな話して。

小春 いえ。

豊 やつと落ち着いたつち言うんにね。

小春 夏はあれでもんね。忙しいですもんね。

豊 今年は特に、ね、親父がおらんかったけ。

小春 ああ、そうですね。

豊 やっぱ、違うもんやね。何か。

小春 それは、そうですねよ。

豊 (神棚を見ながら) うまかったかな？

小春 美味しかったです。

豊 え？

小春 あ、食べさせてもらったんで。この前。この前というか、なんとというか、この前。

豊 なら、来年も、ちゃんと頑張らんな。

小春 美味しかったです。

豊 終わったばっかでこんな言いよったら、鬼が笑うね。

小春 ・・え？

豊 え？

小春 あー、鬼が、ですね。

豊 来年のことを言ったら鬼が笑うつち言う。

小春 鬼、よく笑いますもんね。

豊 笑うかもね。

と、直売所の方からドアを叩く音が聞こえる。

外では激しい犬の鳴き声。

豊 あれ？

小春 また。

豊 もう、何なん。

吉彦(声) こんちやー。佐々木です。

豊 ヨシかちや。

吉彦(声) こんちやー。配達つす。

豊 うるせえ。はいはい。

豊が直売所の方へ出て行く。(以降、直売所の方からは豊と吉彦の声) 二階からはガチャガチャと音が聞こえ、外では犬が鳴き続けている。手持ち無沙汰の小春は、それをノートに書いている様子。

吉彦 おう。配達です。

豊 あっち回れちや。

吉彦 どうせ、ここ置くんやろ。

豊 まあ、そうやけど。

吉彦 コスパよ、コスパ。

豊 使い方、違うわ。

吉彦 お酒ここでいい？

豊 全部ここでいいよ。

吉彦 醤油も？

豊 分らんけ、置いとって。

ガチャンと瓶の置かれた音が聞こえる。

吉彦 おー、腰に来るわ。

豊 おっさんには来るやろうな。

吉彦 おっさんに言われたくないわ。

豊 まだ残つとるん？配達。

吉彦 ここで終わり。配達は。

豊 店番？

吉彦 店番っち言つな。

豊 店番やろ。

吉彦 シフト的には5時に戻れば(いいんやないかな)。

豊 (笑って)シフト。

と、そこに敏子が入って来る。

○敏子 ヨシ君？

○小春 そうみたいです。

○敏子 今日、配達の日やったね。

敏子が直売所の方へ行く。

●吉彦 何で笑うんかちや。

●豊 違和感あるやろ、何か。

●吉彦 コンビニになつたんやけ。

●豊 そらそうやけど。

●吉彦 横文字使って行かんと。

●豊 大した横文字でもないけどな。

●吉彦 横文字に大きいも小さいもないからね。

敏子(声) ご苦労様。

吉彦(声) あ、配達です。

敏子(声) 上がって、お茶ぐらい飲んで行き。

吉彦(声) いつも、すいません。

豊(声) いや・・・

敏子(声) 何？

豊(声) 別にあれやけど。

敏子(声) どうぞ。

吉彦(声) すいません。

敏子が部屋に戻って来て、

敏子 あ、小春ちゃん、ちょっと、ごめんね。

小春 いえ。

敏子 ヨシ君が来るけ。

小春 あ、はい。

敏子はすぐに部屋を出て行く。

直売所の方から、豊と吉彦が入って来る。

豊 ごめんね。

小春 いえ。

吉彦 あら、小春ちゃんもおったん。

小春 こんにちは。

吉彦 さっき配達行って来たよ。

小春 すいません。

吉彦 仕事やからね。

豊 そ、仕事仕事。

吉彦 あら、え？あれ？

豊 何かちゃ。

吉彦 (二人を指差し) そういう？

豊 は？

吉彦 二人で、二人つきりで。

小春 違います。

豊 直と遊びよったん。

吉彦 まあ、そっでしような。こいつ、全っ然そっいうのないけね。

小春 (困って) はい・・・

豊 うるせえちゃ。

吉彦 桃作りよるくせに、さくらんぼ。

豊 もう帰れ、お前。

吉彦 冗談やん。

豊 聞き飽きたわ、それ。

吉彦 そういや、実ちゃん帰って来たん？

豊 え？

吉彦 さつき、配達行ったら、松田のばあさんが。

豊 ああ。

吉彦 大きい荷物持って、歩きよったつち。

豊 どんだけよ。

吉彦 え？マジなんやん。

豊 まあ、そうね。

吉彦 はー、じじばばの話もたまには本当の事があるんやな。

豊 また、いつ発病するか、知らんけど。

吉彦 発病って。

豊 病気よ。あれ。

吉彦 いよいよ俺の出番かな。

豊 は？

吉彦 いよいよ。

豊 まだ言いよったんかちや。

吉彦 そろそろ見る目も養われて、

豊 なら、余計ないわ。

小春 え？そいう。

豊 冗談やけ。こいつの。

吉彦 冗談やないちや、お兄さん。

豊 気持ち悪いわ。

と、敏子がお茶を持って、入って来る。

敏子 楽しそうやね。

豊 全然よ。

敏子 冷たいので良かった？

吉彦 まだ暑いっすからな。

吉彦 (受け取り) ありがとっついでいます。

敏子 小春ちゃんも冷たいのいい？

小春 あ、すいません。(受け取り)

敏子 直ちゃんは？

小春 あ、二階に。

敏子 ああ。
小春 はい。
豊 (受け取り) ああ。
敏子 (小春に) 我が物顔で帰ってくるけねえ。
小春 いや。
敏子 (吉彦に) また帰って来て、あれ。
吉彦 聞きました。
敏子 ね、神経が図太いっつ言うか。
吉彦 図太いというか、
敏子 いや、図太いちゃ。恥ずかしげもなく。
吉彦 まあ、そういう帰れる場所があるということ。
敏子 甘えとるんよ。ホント。
吉彦 そうですね。
敏子 ねえ。
豊 まあ、もういいやん。(小春に) ごめんね。
小春 いえ。
敏子 小春ちゃんも、そうならんようにね。
小春 (困って) はい・・・
敏子 毎回、孫見せる、孫見せるっつ言って、
吉彦 ああ。
敏子 結局、見れんまんま死んでから。
吉彦 (神棚を見て) おじさん。
敏子 いや、私も見れるかどうか。
豊 もういいっつちゃ。
敏子 あんたにも言いよんやけね。
豊 分かっとするけ、もういいんちゃ。
敏子 よくないと思うな。
豊 そのうち大地が見せてくれるちゃ。
敏子 長男やろ？あんた。
豊 孫は孫やろ。
敏子 大地は大地、あんたはあんた。
豊 分かっとするちゃ。
敏子 ねえ、困ったもんよね。
吉彦 それは俺も何ともあれですけど。
敏子 けど、彼女の一人でも、ねえ、連れて来たことあるやろ？
吉彦 まあ、そうですね。
敏子 (指差し) 一回も！
吉彦 やっぱり。

豊 やっぱりっち何か。

敏子 こういう仕事しよると、大体行き遅れるんよね。

吉彦 ですよ。

敏子 昔なら、ね、お父さんもそうやったけど、お見合いでもしてっち言っ

吉彦 あ、それぞれ。

豊 え？

吉彦は。ポケットから、折り畳まれたチラシを差し出す。

吉彦 商工会議所が、何か町コン？するみたいで。

小春 町コン。

敏子 何、それ？

吉彦 何ですかね。合同お見合いみたいな、

豊 行かんよ。

吉彦 何も言っていないやん。

豊 分かるやん。流れで。

吉彦 じゃあ、そういうことやけ。

豊 だけ、行かんちゃ。

吉彦 俺だって、山田さんに頼まれたんやけ。

豊 山田のじいさん関係ないやん。

吉彦 お前と二人分。

豊 勝手に決めんなちゃ。

敏子 お母さん、あんまりこういうチャラチャラしたの好きやないけど。

豊 うん。

敏子 でも、これも出会いやし。

豊 嫌ちゃ。

吉彦 そういう当ても全くないやろ？

豊 ないけどさ。

吉彦 遊びに行くぐらいの気持ちで。

と、そこに実が入って来る。

実 何これ、人が増えとるし。

吉彦 よお。

実 何か、相変わらずやね。

吉彦 変わらない男やけ。

実 つーか、部屋めちやめちや散らかっとうし。押入れのものと、ひっちゃかめっちゃか。

敏子 あんたが急に帰って来るけやろ。
実 そうやね。・・・ただいま。

敏子 また、おかえり。

実 または余計やけど。

敏子 言わせるのは誰ねちゃ。

実 私です。

敏子 分かっとるやん。

豊・・・(吉彦に) 時間、大丈夫？

吉彦 ん？

豊 シフト。コンビニの。

吉彦 ああ、そうやね。

実 本当にコンビニにしたん？

吉彦 本当にしちやったよ。

実 遊び行くわ。

吉彦 おいで、おいで。

敏子 あ、瓶詰め持って帰ってもらっていい？

吉彦 ああ、毎年すいません。

敏子 美味しいか分からんけど。

豊 うまいちゃ。

吉彦 お袋が喜びます。

小春 私もそろそろ。

敏子 ああ、そう？

小春 (実に) ちょっと二階、お邪魔します。

実 ああ。

敏子 お父さんにも、ちゃんと。

実 分かっとるちゃ。

敏子と小春が部屋を出て行く。

吉彦 おー、ゾクゾクしたわ。

豊 うるせえ。

吉彦 実ちゃんも相変わらずやね。

実 すんませんね。

吉彦 いや、そういうとこがいいよ。

実 どこが。

吉彦 俺の部屋、ずっと空けて待っとるけね。

実 埋まっとらんだけやろ。

豊 完全におっさんやな。

吉彦 ああ、これ、よろしくね。

実 何、それ。

豊 だけ、行かんちゃ。

実 町コン？

吉彦 そうそう。いい機会やろ。

豊 どこがよ。

実 兄ちゃんみたいな人にはいいんやない？

豊 どういうことかちゃ。

実 出会いもなく。

豊 別に、お客さんとかと、

実 絶対ない。

吉彦 それはない。

豊 ……。

吉彦 つーか、じじばばばっかやし。

豊 そんなこと、別に。

実 は神棚に祈る。

吉彦 そんな改まったあれでもないやろうし。の？

豊 まあ・・・考えとくわ。

実 考えとく、考えとくつち言いよったら、すぐ死ぬよ。

豊 死なんわ。

実 うちの家系はみんな早死になんやけ。

豊 まあ。

実 おとんも、じいちゃんも、おじさんも、みんな。

豊 そうやけど。

吉彦 いや、そんな重いあれやないけ。

豊 分かっとるちゃ。

吉彦 お見合いしようつちことやないんやけ。気軽に。

と、そこに直子と小春が入って来る。

直子 ああ。

吉彦 よお。

直子 また油売りよん？

吉彦 売っとるよ、油も。

直子 出ました。酒屋ジヨーク。

吉彦 お前が振ったんやろうが。

実 片付いた？

直子 今やりよるちゃ。

豊 掃除したんやなかったん？

直子 途中やったん。

実 おらんとやりたい放題やけね。

直子 ごめんね。

豊 おらんやつが文句言うなちゃ。

実 はいはい。

直子 瓶詰め持って帰るんよね？

小春 あ、そうだ。

直子 ちょっと待って。おばちゃん。

と、直子が部屋を出て行く。

直子（声） 小春の瓶詰め。

一瞬の間。

吉彦 年々深まる違和感。

豊 ん？

吉彦 いや、小春の瓶詰めやって。

小春 はい？

吉彦 何か、いいね。

小春 え？

豊 お前、今めっちゃめっちゃ気持ち悪いよ。

吉彦 やろうね。

実 ヨシ君、車？

吉彦 配達の途中やったけね。

実 せっかくやし、コンビニまで乗せてって。

吉彦 ドライブ？

実 コンビニ。

と、直子と敏子が入って来る。

直子 はい。

小春 （受け取り）ありがと。

敏子 ごめんね、待たせて。

吉彦 いえ。すいません。（受け取り）

小春 ありがとうございます。

敏子 美味しいか分からんけど。

豊 何回言っんかちや。

敏子 一生懸命作りよったけ。

小春 美味しかったです。桃。

敏子 そう。

直子 そうやろ？

小春 うん。

吉彦 これも売ったらいいのに。

敏子 自分とことお裾分け用やからね。

吉彦 もったいない。(豊に) 考えたら？

豊 いやいや。

実 そんな良いもんやないちや。

豊 お前が言うな。

実 車、(縁側の方) こっち？

吉彦 うん。

敏子 ・どっか行くん？

実 コンビニ行くだけ。

敏子 甘いもん買って来て。

実 何でもいい？

敏子 何でもいい。

吉彦 お邪魔しました。

敏子 はい。

実 甘いもん渡しとって、甘いもんっち・

吉彦と実が直売所の方から出て行く。

小春 じゃあ、私も。

敏子 気をつけてね。

直子 あ、一緒行くよ。

小春 え？

直子 コロの散歩せなやし。

小春 うん。

直子 行ってくるね。

敏子 気をつけて。

直子 はいはい。

小春 お邪魔しました。

直子と小春が部屋を出て行く。敏子はコップを片付け始める。

豊 コロっちさ。

敏子 ん？

豊 コロ。うちに来て、どれくらいかね？

敏子 何、急に。

豊 いや、何となく。

外から犬の鳴き声が聞こえる。

敏子 直ちゃんとあれやけ、十何年かやない？

豊 そうよね。

敏子 何ねちゃ。

豊 いや、もうじじいやなっち思って。

敏子 じいさんもじいさんよ。

豊 こっち来た時は小さかったんに。

敏子 子どもやったからね。

豊 そら、年も取るわ。

敏子 みんな年取るよ。私も。もういつ死んでもおかしくないんやけ。

豊 地雷踏みそうやけ、もういいや。

敏子 自分から言い出しとって。何なん。

豊 直、部屋の掃除しよんって。

敏子 聞いた。

豊 あ、そ。

敏子 大地、今日は日勤っち言いよったよね？

豊 そうやない？

敏子 ご飯足りるやか。

豊 一人増えたからね。

敏子が部屋を出て行く。

豊も直売所の方へ消えて行く。

夏の名残がある部屋は、段々と冬支度をはじめめる。

カレンダーは9月から10月になっている。

2.

外で犬が鳴いている。

部屋の中に、大地と彼女の京子が入って来る。

大地 どうぞ。

京子 お邪魔します。

大地 ごめんね、ここしなくて、汚くて。

京子 全然。

大地 適当に座って。

京子 うん。

大地 土とか落ちてない？

京子 え、何それ。

大地 たまに落ちとるけさ。

京子 土が？

大地 作業したまま、平気で上がってくるけさ。

京子 ああ、そういうね。

大地 落ち着かんやろ、こんなとこで。

京子 大ちゃんの方が落ち着いてないけ。

大地 ああ、そうやね。

京子 大丈夫やけ。

大地 いや、部屋行きたいんやけど、何か兄貴がゴソゴソしよるけさ。

京子 ああ。

大地 あ、ゴソゴソっち、そういうやつやなくて。

京子 そういう？

大地 そういうち言うのは、そういうやつやなくて。

京子 大丈夫？

大地 いつもなら、部屋におらんのやけどね。兄貴。仕事しよって。

京子 ああ。

大地 ちょっとお茶でも飲む？

京子 大ちゃんが飲みたいんやないん？

大地 まあ、そうとも言う。

大地が部屋を出ようとすると、そこに作業着姿の直子が入って来る。

直子 あら、帰ったん。

大地 ほら、そのまま上がって。

直子 ん？

大地 土。

直子 叩いたちや。
大地 ちゃんと脱いでからさ、
直子 彼女さん？
京子 あ、初めまして。
直子 初めまして。
大地 京子ちゃん。
直子 彼女の京子ちゃん。
京子 京子です。
直子 はいはいはい。彼女の。
大地 こっちは、何と言うか、
直子 直子です。
京子 直子さん。
大地 直ちゃん、ちよっとお茶入れて来て。
直子 いいよ、いいよ。
大地 気持ち悪いちや。
直子 お邪魔やけね。
大地 だけ、気持ち悪いちや。

直子が部屋を出て行く。

大地 あ、ちゃんと手洗ってよ。
直子(声) 分かつとるちや。
京子 全然イメージ違うやん。
大地 え？
京子 あの、お姉さんやろ？
大地 あ、違う違う。
京子 あ、違うん？
大地 ほら、前に話したことなかったっけ？従兄弟の。
京子 従兄弟？
大地 死んだおじさんの。
京子 ああ。従兄弟の。
大地 そうそう。
京子 あ、全然この家の人やと思った。
大地 まあ、そうやね。
京子 わー、言われんかったら、全然分からん。
大地 近所の人も忘れとるんやないやか。
京子 長いっち言いよったっけ？
大地 どれくらいやろ？俺が小学生やったけ、

京子 え、そんなに？

大地 そうやね。よう考えたら、そんなになるね。

京子 そんな。

大地 まあ、ほとんど、この家の人やけ、気にせんで。いや、気になるやろうけど。

京子 いくつ？

大地 俺の一個下かな。

京子 ああ。

大地 けど、昔から偉そうやったけさ。

京子 そうなんやん。

大地 俺の方が上なんに、大地と直ちゃんやからね。

京子 へえ。

大地 失礼なこと言ったら、ごめんね。

京子 全然大丈夫。

直子が部屋に入って来る。

直子 大地はお茶いらんみたいやね。

大地 あ。

直子 ごめんごめん。

大地 いるって。

直子 偉そうやけ、二杯飲むし。

大地 飲みます。

直子が京子にお茶を差し出す。

直子 京子ちゃん、どうぞ。

京子 ありがとうございます。

直子 じゃ、いただきます。

大地 しつこいわ。

直子 (叩いて) 誰が偉そうよ。

大地 これよ。いてえ。

直子 彼女の前やけっち、ねえ？

直子が大地にお茶を差し出す。

大地 誰かちゃ。

京子 いただきます。

直子 どうぞ。

大地 兄貴、何しよん？

直子 ん？

大地 仕事は？

直子 今日は休み。だけ、代わり。

大地 ああ。

直子 決戦なんて。ヨシ君いわく。

大地 ヨシ君？

直子 まあ、どうせ何ともならんやろうけど。

大地 おかんは？

直子 あら、そういえば、おらんね。

大地 どこ行ったん？

直子 回覧板回しに行ったんやけどね。

大地 何なん。

直子 言っとったんやろ？

大地 ん？

直子 京子ちゃんが来るっち。

大地 まあ、チラツと。

と、外から声が聞こえる。

実(声) ただいまー。

直子 おかえり。

吉彦(声) ただいまー。

直子 ん？

吉彦(声) 豊ー。

豊(二階から) え、そんな時間？

吉彦(声) そうぞ。

豊(二階から) ちよっと待ってくれん？ちよっと。

吉彦(声) ちよっとやけの。

豊(二階から) すまん。ていうか、付き合ってるんに、

吉彦(声) いいけ、準備しろちゃ。

豊(二階から) おー。

実(声) とりあえず、上がとつたら？

吉彦(声) お邪魔します。

大地 人が多いな。

直子 変なの来るけど、気にせんで。

京子 変なの？

実と吉彦が入って来る。

実 あら？

京子 初めまして、倉田です。

実 ああ、彼女さん。

吉彦 え？大地の？ほお。

実 こんにちは。

大地 何で、ヨシ君がおるん。

吉彦 迎えに来たんよ。

直子 一緒やったん？

実 ちょうどシフト終わりやっただけ。

吉彦 いや、だいぶ待ったけど。

実 あざっす。オーナー息子。

大地 これ、姉ちゃん。

実 これです。

京子 ああ。

大地 これ、近所の人。

吉彦 ローソン兼佐々木酒店オーナーの息子の佐々木です。

京子 佐々木さん。

大地 兄貴の友達。

京子 へえ。

実 お茶いいねー。

直子 自分で入れり。

実 ヨシ君？

吉彦 それ、本気で言いよん？

実 冗談ちゃ。飲む？

吉彦 飲む飲む。

実が部屋を出て行く。

京子 賑やかやね。

大地 ごめんね。

京子 何で？全然楽しいよ。

吉彦 二人はどこで知り合ったん？

直子 グイグイ行かんの。

吉彦 いいやん、ねえ？

京子 はい。今の仕事場で。

吉彦 工場？

京子 私は事務ですけど。

吉彦 やるねー。

大地 何が。

吉彦 だって、工場っち言ったら、ギラギラしたやつらの巢窟やろ？

大地 そんなことないちゃ。

吉彦 そうよね？

京子 どうですかね。

吉彦 そのギラギラした中で、勝ち進んで。

大地 だけ、別に。

吉彦 こんなべっぴんさんを。

京子 いやいや。

直子 だけ、グイグイ行かんの。

吉彦 褒めよんやけ。

直子 褒めよっても。

吉彦 よ、さすが桃果樹園の息子。桃のような、

直子 (叩き) はい、ダメ。

吉彦 とか言ってないやんっち、

直子 もう言っただけ、ダメ。

大地 ごめんね、マジで。

京子 いや、全然。

吉彦 ねえ、工場っちこんなんばっかよね？

大地 偏見ちゃ、それ。

と、二階からバタバタと降りて来る音。

吉彦 ん？

豊(声) 髭剃り知らん？

実(声) 知らんけど。

豊(声) 洗面所やか。

実(声) え、ねえ、それで、

吉彦 騒がしいねえ。

大地 早く行って欲しい。

吉彦 ん？で？今日は何？

大地 はい？

吉彦 親に挨拶的な？

大地 そんなんやないちゃ。

吉彦 あ、違うん？

直子 でも、会わせるやろ？

大地 会わせるっちゅーか、まあ、それはそうやけど。
直子 うちらとも会って。
大地 結果ね。
吉彦 前のは連れて来とらんやろ？
大地 前とか言わんでちや。
吉彦 連れて来てないんよ。
京子 はい。
大地 だけ、言わんでいいちや。
直子 はじめて。
京子 ああ。
吉彦 つまりは？
大地 つまりとかやなくて。
吉彦 (言わせようと) けっ・・・
大地 こん、とかやないんちや。今日は、遊びに来たいっち(言うけ)、
吉彦 今日はそうでも、近いうちに、けっ・・・
大地 こん、するとか簡単には言えんやろ？
吉彦 簡単じゃないにしても、いずれは、けっ・・・
大地 こん、したいとは、いや、まあ、思うけど。
吉彦・直子 おー。
大地 何なん。腹立つわ。
直子 したいんって。
京子 はい。
吉彦 そんなん言えるようになってから。
大地 言わせとるやろ。
吉彦 でも本心なんやもんな。
大地 そうやけど。
直子 本心なんて。
京子 はい。
大地 もういいやん。何なん。
直子 そうなったら、おばちゃんも喜ぶよ。
吉彦 ん？ああ、おばちゃんね。
大地 どうやか。
直子 ん？
大地 姉貴のこともあるし。
吉彦 あれとは別ちや。

と、そこに実がお茶を持って入って来る。

実 あれがどうしたん？

吉彦 ん？あれとか言った？言ったっけ？

実 私の悪口？

吉彦 違う、違う。

実 結婚とか親のためにするもんやないんちゃ。

吉彦 聞こえとんかい。

実 したい時にすりゃいいんよ。

直子 の、失敗例。

実 失敗とか思ってないし。

大地 思えよ。

実 好きになっただけ結婚して、嫌になっただけ別れて。

大地 考えなしにね。

実 何を考えるんよ。

大地 いや、普通色々考えるやろ。

実 普通やん、私。

大地 普通やないちゃ。

実 好きになったら一緒に暮らして、合わんかったら離れて。

直子 離れたら帰って来て。

実 そういうこと。

吉彦 自分に素直なんよね？

直子 自分勝手なんよ。

実 だって自分家やもん。

直子 まあ。そうやね。

直子がお茶に口をつける。

実 自分家よ。

同じように、実もお茶に口をつける。

吉彦 さつきから思いよったんやけど、

実 ん？

吉彦 俺のお茶は？

実 あれ？飲むんやっただけ？

吉彦 まあ、そんなんどっちでもいいね。

実 (自分の) これ、飲んでいいよ。

吉彦 ありがと。

実 (京子に) 何か、ごめんね。

京子 いえ。

吉彦 豊にもな、少しでもそういう（のがあれば）、
実 あ。

吉彦 ん？

実 町コンっちさ、お堅い感じ？

吉彦 え？

実 （吉彦を見て）違うよね。

大地 町コン？

直子 決戦。

大地 ああ。

吉彦 ゆるい感じやと思うけど。

実 よね。

吉彦 え？何が？

と、そこに髭を剃りながら、髪型をバツチリ決めた、スーツ姿の豊が入って来る。

豊 ごめん、もうちよい。

吉彦 ああ。

豊 何なん、めっちゃ人おるやん。

吉彦 そうね。

直子 それで行くん？

豊 あれ？

豊は吉彦の服装に気づき、

豊 え？あれ？

吉彦 ビンっとしとるな。

豊 だって、え？お前、ちゃんとした格好っち。

吉彦 いや、いつものよれた。ポロシャツは止めろぐらいの、

豊 ちゃんとした格好っち、

吉彦 いいよ。持ち前の真面目さが出る。

豊 浮くやん。

吉彦 他にもおるよ、多分。

豊 お前は違うやん。

吉彦 個性、個性。

直子 農家の体感はないけど。

実 頭どうしたん？

豊 あ。

実 いや、いいんやけどね。
豊 ちよっと、お前の借りた。
実 いいけど。

吉彦 気合入っとな。
豊 そういうんやなくて、
吉彦 いや、入れとこ。

豊 ちよ、何か、嫌やわ。

直子 頑張れー。

豊 止めろや。

大地 あ、あれ兄貴。

京子 ああ、うん。

豊 え？あ、すいません。ちよ、え。

大地 彼女。

豊 あ、え？すいません。髭とか、

京子 お構いなく。

豊 いやいや、ちよ、言えよ。

大地 知らんし。

豊 お前、髭とか。

直子 別に髭はいいやろ。

豊 初対面で髭剃りしよるっち。

豊が部屋を出て行く。

吉彦 あ、もういいちゃ、行くぞ。

吉彦が部屋を出て行く。

京子 何か、楽しい人やね。

大地 いつもあんなやないんやけどね。

京子 そうなん。

直子 初めてのコンパにフワフワしとるんよ。

大地 兄貴が？

実 あんな嫌そうやったんに。

直子 髪の毛までセットして。

実 初めて見たわ。

直子 結果、楽しい人やったね。

京子 あ、すいません。

直子 楽しい人やったもん。

大地 よう行くつち言ったね。

実 強引にね。ヨシ君が。

大地 にしても。

直子 なんだかんだ思うところもあるんやない？

大地 兄貴が？

直子 そ。

大地 あの、兄貴が？

直子 あの兄貴も34やし。

大地 まあ。

直子 弟も結婚しそうやし。

大地 関係ないやろ。

直子 あるつちや。

大地 いや、てか、結婚も別に、ねえ？

京子 え？まあ。

直子 そんな、彼女に聞かんの。

大地 別に考えてないとかやないけど、

直子 考えたらいいんよ、失敗せんように。

実 失敗やないちや。

直子 一般的に。

実 一般ちや、私も。

大地 あ、部屋行く？

京子 ああ。

大地 兄貴も出るみたいやし。

直子 落ち着かんもんね。

京子 いえ。

大地 落ち着かんよ。

京子 コップ、

直子 あ、置いとって。大丈夫やけ。

京子 すいません。

直子 いいえ。

大地 部屋もちよっと散らかつとるんやけどさ。

京子 大丈夫よ。

大地と京子が部屋を出て行く。
少しの間。

直子 お茶いらんの？
実 いるん？

直子 いらんのなら。

実 いるけど、欲しいならあげる。

直子 は？いるなら、いらんし。

実 じゃあ、いらん。

直子 じゃあ、もろう。

直子が実のお茶を手に取り、飲む。

実 仕事戻らんでいいん？

直子 まあ、剪定しかないし。

実 ふーん。

直子 大事な仕事やけどね。

実 大事ななんやん。

直子 来年の収穫に関わるけ。

実 来年か。

直子 分からんやろうけど。

実 分からん。

直子 やろうね。

実が直子が飲んだお茶を飲む。

実 さっきの。

直子 ん？

実 あれ、なんちゅうか、別にそういう意味やないけ。

直子 お茶？

実 お茶？

直子 違うならいいや。

実 何、お茶っち。

直子 何でもない。

実 途中で止めんでよ、気持ち悪い。

直子 今、飲んだけ。

実 は？

直子 お茶。

実 これ？

直子 そう。

実 いや、私のやし。

直子 あたしがもらったやん。

実 もともと私のやし。

直子 もともとそうでも、一回もらったら、もうこれはあたしのなん。
実 今はそうでも、私が持つて来たん。

直子 持つて来たけど、いらなくなっただけ、あたしがもらったんやん。
実 飲んだつちことはいるつちことやろ。

直子 そしたら、一言そう言えばいいやん。欲しいつち。
実 私のなんに？

直子 だけ、実ちゃんのやったけど、あたしがもらったつちことは、今はあたしのなん。
実 何の話やったつちけ？

直子 何つち、お茶やろ？
実 じゃあ、欲しい。

直子 じゃあ、あげる。

実がお茶を飲み干す。

直子 全部行くかね。

実 欲しいつち言つたやん。

直子 ・・別にいいけど。

実 下らんね。お茶ぐらいで。

少しの間。

直子 さっきつち何なん？

実 ？

直子 さっき、さっきの話をしよつたやろ？

実 なぞなぞ？

直子 は？自分が言い出したんやん。

実 もうよう分からんくなつた。

直子 何、それ。

吉彦(声) だけ、時間ちや。

豊(声) 顔だけ。

と、そこに豊が入つて来る。後ろには吉彦。

豊 あれ？

実 まだおつたん？

豊 おるよ。

吉彦 早、行こちや。

豊 大地たちは？

直子 上。

豊 ああ。

吉彦 もう行かんでいいちゃ。

豊 ちよっと顔だけ出して。

吉彦 出してどうするんか。

豊 だけ、挨拶を。

実 おかんがするちゃ。

豊 それはそれで。

実 してどうするん？

豊 どうするっち、別に。「ゆっくりっち。

実 行かん方がゆっくりできるわ。

豊 まあ。

吉彦 何しよんか分からんやろ。

豊 は？

吉彦 何しようか。

豊 俺の部屋で？

吉彦 大地の部屋でもあるんやけ。

豊 え？そんなもん？

実 しよらんちゃ。下に人がおって。

豊 よ、の？

実 するなら家に来んわ。

吉彦 おお、生々しい。

実 さっさ行け。

豊 でも、髭剃りの兄ちゃんっち思われて、

直子 もう思われとるけ。

豊 思われとるんかちゃ。

直子 思われとっていいやん。別に。

豊 いいんやけど。

吉彦 はいはい、じゃあ、行くよ。

豊 おう。

実 いったらっしやい。

直子 頑張ってね。

豊 よろしく伝えとって。

実 はいはい。

吉彦と豊が部屋を出て行く。

実 そんな挨拶しときたいん？

直子 さあ。

実 何をそんなに。

直子 おいちゃんもおらんしね。

実 は？

直子 とりあえず長男やし。

実 何それ。

直子 分からんけど。

実 おとんの代わりにっち？

直子 いや、思っではないやろうけどね。

実 なれん、なれん。

直子 まあ、そりや、なれんよ。

実 なれるわけないやん。

直子 うん。

実 彼女の一人もおらんで。

直子 でも、何かあるんやない？

実 しっかりせなっち？

直子 何ちゆうーか、責任感と云うか。

実 勝手に。

直子 そういう人たちやん。

実 ん？

直子 市井家の、その、血というか。

実 ・・ああ。

二人は何となく、神棚を眺めている。

実 だけ、すぐ死ぬんやろうな。

直子 かもね。

実 ホント、みんな早いちゃ。

直子 みんな、余計なもん背負うけね。

実 まあ、余計かは分からんけど。

直子 余計よ。

実 なら、私は長生きするね。

直子 する、する。

実 否定しろ。

直子 早く死にたいん？

実 いや。

直子 じゃあ、いいやん。

実 市井の血が入ってないんやないやか。

直子 入っとるよ。ちゃんと。
実 入っとるんやろうけど。

直子 おばちゃんこの血も入っとる。
実 おかんね。

直子 似とるもん。
実 は？

直子 おばちゃんと。
実 どころが。

直子 分からんやろうけど。

実 全然分からん。

直子 . . .

実 お茶いる？

直子 んー、大丈夫。

実 ホントに？後でいるっち言っても、絶対あげんけ。

直子 言わんちゃ。

実 そう言いながら、欲しいっち言っけね。

実はみんなのコップをお盆に乗せ、部屋を出て行く。

一人残った直子は神棚を眺め、犬の散歩道具を持ち、部屋を出て行く。
しばらくすると、お茶と桃のコンポートを皿に入れ、実が入って来る。
桃には爪楊枝が2つ刺さっている。

実 (ポツリと) おらんし。

実はとりあえず座り、お茶に口をつける。

そこに玄関から声が聞こえる。

敏子 (声) ただいまー。

実 (ポソリと) おかえり。

実は桃を一切れ、口に運ぶ。

敏子 ああ。ただいま。

実 どこ行っとったん？

敏子 ちよっと、ほら回覧板を。

実 今、大地の、あの、

敏子 彼女やろ？

実 ああ、知っとったん？

敏子 こないだね、チラっと。
実 上におるわ。

敏子 美味しい？それ。

実 まあ、例年通り。

敏子 なら、豊も喜ぶわ。

実 ああ、そうね。

敏子 もらっていい？

実 どうぞ。

敏子は桃を一切れ、口に運ぶ。

敏子 うん。

実 おかんのさ、

敏子 ん？

実 旧姓ucci何やったつけ？

敏子 大島よ。

実 ああ、大島やったか。

敏子 何、急に。

実 じいちゃん、ばあちゃんは元気？

敏子 え？どうやろうね。最近会ってないし。連絡がないucciことは元気にしとんやない？

実 何歳やったつけ？

敏子 もう80はなるやろ。

実 そっか。

敏子 それがどうしたんよ。

実 いや、長生きやなーっち思っただけ。

敏子 大島はね。

実 まあ。

敏子は桃を一切れ、口に運ぶ。

実 行かんの？

敏子 ん？

実 いや、二階に。

敏子 ああ。

実 別にいいんやけど。

敏子 そのうち顔合わせるやろ？

実 ああ。

敏子 結婚とかの、あれやないんやろ？

実 まあ、そうね。

敏子 慌てんでも。

実 慌てんでもね。

敏子 別にあんたのことやないけ。

実 分かつとるちゃ。

少しの間。

実 部屋戻ろつかな。

敏子 もういらんの？

実 もういいや。

敏子 一人でこんな出してから。

実 おかん、食べるやろ？

敏子 お母さんが食べんやったら、どうしとったん。

実 いっぱい食べるっち思いよったん。

と、二階から降りて来る足音が聞こえる。

実 ん？

実が部屋から階段の方を見ている。

実 ああ。

京子（声） あ、すいません。

実 どしたん？

京子（声） お手洗い、お借りしようと思つて。

実 ああ、トイレこっち。

京子（声） すいません。

実が部屋の中に顔を戻し、

実 彼女さん。

敏子 ああ。

実は部屋から顔を出し、

実 おかん帰つて来とるよ。

京子（声） あ、そうなんですか。

京子が部屋に入ってきて来る。

京子 初めまして。倉田と言います。

敏子 大地の母です。

京子 あ、お邪魔してます。

敏子 ねえ、お構いもせず。

京子 いえ。

少しの間。

敏子 あ、もし良かったら、これ食べない？

京子 ああ。

敏子 うちで作った桃なんやけど。

京子 いいんですか？

敏子 良かったら。

京子 すいません。じゃあ、頂きます。

実 部屋、行くわ。

敏子 ああ。

実 おったがいい？

敏子 いや、いいけど。

実 ん。

実が部屋を出て行く。

京子 頂きます。

敏子 あ、どうぞ。

京子が桃を一切れ、口に運ぶ。

京子 美味しい。

敏子 そう。

京子 これ生じゃないですよね？

敏子 桃は夏で終わるけね、この時期はこう、瓶詰めにして。

京子 そうなんですね。

敏子 売ってるやつじゃないから、ね、こう口に合ったらいいけど。

京子 美味しいです。

敏子 良かった。食べれるなら、まだ食べて。

京子 あ、はい。

京子は桃を一切れ、口に運ぶ。

京子 うん。

敏子 実が、うちの長女が、食べ切れもせんのに、いっぱい入れるけ。

京子 ああ。

敏子 ねえ、入れるけね。

京子 美味しいです。

敏子 ねえ、なら良かった。

京子 はい。

少しの間。

敏子 あ、ねえ、良かったら、どんどん食べて。せっかくやし。

京子 すいません。

敏子 こんなんしかないけ。

京子 いえ、美味しいです。

京子は桃を一切れ、口に運ぶ。

京子 うん、美味しい。

敏子 倉田さん、やったよね？

京子 あ、はい。

敏子 おいくつ？

京子 29になります。

敏子 ああ。じゃあ、実と一緒に。

京子 そうなんですか。

敏子 何か、落ちついたりね。

京子 そんなことないんですけど。

敏子 うちのとか、全然やけね。

京子 初めて、あの、お邪魔してるんで、緊張とかで。

敏子 まあ、そうね。

京子 はい。

敏子 実はね、私も緊張しとるん。

京子 え？

敏子 ちよっとね。

京子 そうなんですか。

敏子 上の兄ちゃんは、こういうの全然やし。
京子 ああ。

敏子 大地も、ねえ、こうやって初めて連れて来て。
京子 すいません。

敏子 違う、違う。嬉しいんよ。

京子 はい。

敏子 ホント、もう全然やったけ。

京子 でも、あの、お姉さんが。

敏子 ああ。あん時は、ほら、お父さんがまだおったけね。

京子 そうですね。

敏子 こういうのやってくれよって。

京子 ああ。

敏子 あの人、こういうの嫌いやなかったけ。

京子 へえ。

敏子 去年、他界しちゃったんやけどね。

京子 聞きました。

敏子 ああ、そうなん。

京子 はい。

敏子 そうなんよね。

京子 孫が見れんで、残念やったやろうなっち。

敏子 大地が？

京子 はい。

敏子 そんなこと言いよん？

京子 だいぶ酔ってましたけど。

敏子 大人になったもんやね。

京子 そうですね。

敏子 あいつがね。

京子 はい。

敏子は桃を一切れ、口に運ぶ。

敏子 ご兄弟は？

京子 姉がいて、もう結婚したんですけど、子どもも2人。

敏子 あ、そう。

京子 はい。

敏子 なら、ご両親も、安心やね。

京子 そうかもですね。

敏子 安心よ。

京子 私ももう30になるんで、あれですけど。
敏子 そうね。

京子 とか、お母さんに言うのもあれですね。

敏子 私はもうどうでもいいけ、二人がね、いいタイミングで、
京子 はい。

敏子 私はどうでもいいんやけ。

と、そこに直子が入って来る。

直子 あ、おかえり。

敏子 また、そのまま上がって来て。

直子 コロの散歩。

敏子 あ、そ。

直子 二人？

敏子 こっち、大地の彼女。

直子 京子ちゃんやろ？もう会った。

敏子 あ、そう。

直子 ねえ。

京子 はい。

直子 あ、桃やん。

直子が座る。

敏子 あれ？

直子 何？

敏子 倉田さんの方が年上やろ？

直子 あ、そうなん？

京子 まあ。

敏子 何で京子ちゃんっち呼びよん。

直子 京子ちゃんっち紹介されたけ、京子ちゃんっち呼んだんやん。

敏子 京子さんやろ？

直子 どっちでもいいやん。頂きます。

直子が桃を一切れ、口に運ぶ。

敏子 これも全然男っ気がないけね。

京子 ああ。

直子 別にいいやん。

敏子 豊みたいになるよ。
直子 ならん、ならん。
敏子 どうやろうね。
直子 京子ちゃん、食べた？
京子 うん。
直子 美味しいやろ？
京子 美味しかったです。
敏子 ほら、おかしいことなっとる。
直子 何が？
敏子 倉田さんが敬語使いよるやん。
直子 敬語やなくていいよ。
京子 ああ。
敏子 なくていいです、やろ？

と、そこに大地が入って来る。

大地 何で、こんなことなっとん。
敏子 ああ。
大地 トイレから戻って来んけさ。
京子 あ、忘れとった。
大地 え？
京子 お手洗い、お借りしていいですか？
敏子 あ、ごめんね、呼びとめたね。
京子 私も忘れてました。
大地 してもないんかい。
京子 ごめん、ごめん。

京子が部屋を出て、トイレの方へ行く。

大地 ああ。彼女。
敏子 知っとる。
大地 やろうね。
直子 結婚するんっち。
敏子 あ、そう。
大地 言っとらんやろ。
直子 言ったやん。
大地 言わされたん。言わされたんやけ。
敏子 そんな言いよったら、京子ちゃんが可哀想やろ？

大地 いや。
直子 京子ちゃん。
敏子 いいやんね、年上女房。
大地 まあ。
敏子 あんたはしっかりしとらんし。
大地 そんなことないちゃ。
敏子 ま、期待せんで待っとこうかね。
大地 めっちゃ期待しとるやん。
敏子 ご飯食べて行くやろ？
大地 どうかな。
敏子 せつかくやしね。
大地 まあ、聞いとくわ。
敏子 豊はおらんし、5人分やね。
直子 帰って来るかもよ。
敏子 付き合っただけはいいけ、最後まではおるやろ。
直子 なるほど。

敏子は鼻歌（大泉逸郎の孫）を鳴らしながら、部屋を出て行く。

直子 ご機嫌やね。
大地 何の話したんやろ。
直子 気になる？
大地 ん？知っとん？
直子 全然。
大地 何かちゃ、それ。
直子 でも、気に入ったんやない？
大地 え？
直子 おばちゃん、京子ちゃんっち呼んどつたし。
大地 そんなもん？

と、トイレから出て来た京子が部屋に入って来る。

京子 あれ？
大地 ああ、飯の準備しに行った。
京子 ああ。

直子が桃を一切れ、口に運ぶ。

直子 残りは二人にあげよう。
大地 いや、全然残ってないし。
直子 ごゆっくり。
京子 ありがと。
直子 ん。

直子が部屋を出て行く。

大地 あ、夜、食べて帰るかつち、おかんが。
京子 いいん？
大地 京子ちゃんが良かったら。
京子 じゃあ、せっかくやし。
大地 無理せんでいいけ。
京子 全然、無理してないよ。
大地 気使うやろ？
京子 大丈夫。みんないい人やし。
大地 そう？
京子 お母さんも、お姉さんも、
大地 姉貴も？
京子 うん。お兄さんも、佐々木さんは面白かったけど。
大地 あの人は、この人やないけ。
京子 直ちゃんも。
大地 あれは、この人やな。
京子 何か、明るくなるよね。
大地 直ちゃん？
京子 おると。
大地 まあ、そうね。ムードメーカーみたいなのはあるかもね。
京子 そう思った。
大地 あ、食べる？
京子 もらおうかな。

二人は桃を一切れずつ、口に運ぶ。

京子 やっぱ美味しいね。
大地 お袋の味で、親父の味やからね。
京子 ああ。
大地 こんなんが。
京子 でも、そうなんやろうね。

大地 まあ、今は兄貴やけど。

京子 そっか。

大地 部屋戻る？

京子 うん。

大地 ここおっても、落ち着かんしね。

京子はお皿を持ち、二人は部屋を出て行く。

カレンダーは10月から11月になっている。

11月のカレンダーは23日に○が記されている。

直売所から男たちの騒がしい声が聞こえる。
と、部屋に実が入って来て、こたつに入る。
そこにほろ酔いの吉彦が、ポットを持って部屋に入って来る。

吉彦 おう。

実 自分家か。

吉彦 第2の家やな。

実 誰も認めてないけど。

吉彦 実ちゃんは敵しいねー。

実 何しよん？

吉彦 祭りも近いしね、会議よ。

実 ああ、祭りか。

吉彦 青年団の会議。

実 青年団？

吉彦 この辺の若いの集めて、未来のことを話し合う。

実 おらんやろ、若いの。

吉彦 人数は関係ないちゃ。志やけ。

実 関係あるやろ。

吉彦 まあ、そういう真面目な会議よ。

実 ポット片手に。

吉彦 やっぱ、ちよっと冷えるけさ。

実 お湯割りで。

吉彦 もうロックはきつわ。

実 どころが真面目よ。

吉彦 あの頃の志士たちもね、

と、そこにパジャマ姿の大地が入って来る。

大地 あ、おはよう。

実 早くないけど。

吉彦 あら、大地がおるやん。

大地 いや、こっちの台詞やけど。

吉彦 お前も若いやないか。

大地 え？

吉彦 ほら、こっち来て、飲もうぜ。

実 飲もうっち言いようやん。

大地 ちょっと用事があるけ。

吉彦 じゃあ、用事が終わったら。

大地 気が向いたら。

吉彦 日本の夜明けを語り合っんよ。

吉彦は直売所へ入って行く。

実 (ぼつりと) 酒くさ。

大地 何、あれ。

実 青年団の会議っち。

大地 会議？

実 という名の飲み会よ。

大地 昼間っから。

実 夜勤明け？

大地 そ。

実 よう働くね。

大地 稼がんと。

実 結婚せんとやしね。

大地 まあ。

実 否定もせんくなったか。

大地 ちゃんとせんとやし。

実 偉い、偉い。

大地 姉貴は何しよん？

実 何しようように見える？

大地 ダラダラしようように見える。

実 じゃあ、正解。

大地 何か、それ。

大地がタバコを取り出し、

実 禁煙。

大地 は？

実 ここ禁煙になったんよ。

大地 いつから。

実 段々。

大地 いや、知らんし。

実 そういもんよ。

大地 . . .

実 吸いたいなら、向こう(直売所)行って来たら？

大地 向こうは勘弁やわ。

実 もう、あんたしかおらんのやけね、諦めり。

大地 世知辛い。

実 もうそういう世の中よ。

大地 自分家なんに。

実 (直売所を指し) 家長が吸わんけ。

大地 兄貴？

実 そうなるんやない？

大地 おかんやなくて。

実 果樹園、継いどるし。

大地 ああ。

実 まあ、どっちにしても吸わんけど。

大地 ああ、次男は辛いわ。

実 好き勝手できとるやろ？おかげで。

大地 しとらんわ。

実 しとるちゃ。

大地 どこが？

実 好きな仕事ができるし。

大地 別に好きやないけど。

実 思い立ったら、勝手に出て行けるし。

大地 それは姉貴やろ。

実 あんたもそうやろ？

大地 は？

実 結婚したら出るやろ？家。

大地 まあ、出るやろうけど。

実 ほら。

大地 それは、出るもんっち思っとるけさ。

実 私と一緒よ。

大地 何か嫌やな。

実 (直売所を指し) 出たくても、出れんのやけ。

大地 出たいっち思っでないやろうけど。

実 最初から選択肢がなかったけね。

大地 ああ。

実 生まれた時から、そういう運命なんよ。

大地は近くにあった、直子のノートを手にし、眺めている。

大地 別に逃げとるわけやないもんね。

実 は？

大地 家を出るけつち。

実 何から逃げるん？

大地 分からんけど。

実 勝手に出りやいいんよ。

大地 まあ。

実 ああ、私は好き勝手したいわー。

大地 もう発病しとん？

実 誰が病気なんよ。

大地 病気ちや。

実 あんたには分からんやろうね。

大地 全然分からん。

と、マスクをした直子が部屋に入って来る。

大地 風邪？

直子 ああ、違う違う。

大地 ん？仕事？

直子 ただの掃除。

直子は直売所の方へ行く。

大地 姉貴は？

実 ん？

○大地 掃除しよらんのか？

○実 何で？

○大地 何でうち、二人の部屋で。

○実 勝手にやりよるだけやし。

○大地 いや。

○実 押入れの中、引っ張り出して。

○大地 ああ。

○実 掃除しよんか、散らかしよんか分からん。

○大地 押入れ。

●直子 酒くさ。

●吉彦 お、直ちゃん、一緒に飲む？

●直子 段ボールある？

●吉彦 無視。

●豊 あるけど、何に使うん？

●直子 まあ、ちょっと片付けに。

●豊 ああ。

●直子 ありがとう。

実 おかげで部屋でゆっくりも出来んけね。

直子が段ボールを持って、直売所から出てくる。

直子 今日、おらんっち言いよったやん。

実 予定が変わったん。

直子 おらんっち言ったけ、やりよったんちゃ。

実 すいませんね。

直子が部屋を出て行く。

実 勝手に帰って来て。

大地 もう大掃除しよん？

実 知らん。

大地 だって、ねえ、11月よ？

実 知らんちゃ。

大地 そうやろうけど。

実 何考えとんか、分からんちゃ。

大地 やりたくなったんやろ？何か。

実 マジで迷惑やけ。

大地 迷惑とか言わんちゃ。

実 迷惑なもんは迷惑なん。

と、玄関から声が聞こえる。

小春(声) ごめんください。

大地 はーい。小春ちゃん。

実 みたいやね。

大地 あ、俺、こんな格好やし。

実 は？

大地 まあ、問題ないね。小春ちゃんやし。

大地が部屋を出る。

実は大地が置いた、直子のノートを手にする。

大地（声） こんにちは。

小春（声） あ、こんにちは。

大地（声） 直ちゃん？

小春（声） いますか？

大地（声） 直ちゃん。

吉彦（声） 呼んだ？

実 呼んでない。

吉彦（声） あ、そう。

大地（声） 何か、掃除しようみたいで。

小春（声） ああ。

大地（声） ちょっと呼んでくるけ、上がったとき。

小春（声） あ、すみません。

大地（声） 部屋、あれみたいやけ、ちょっと待ってって。

小春（声） すみません。

大地が二階に上がる音。 小春が部屋に入って来る。

小春 あ、こんにちは。

実 いらっしやい。

小春 すみません。お邪魔します。

実 どうぞ。

小春 すみません。

実 二階、すごい散らかってるんよ。

小春 はい。

実 何か、掃除はじめて。

小春 最近、よくしてますよね？

実 そうなん？

小春 あ、そうでもないですかね。

実 さあ。

小春 そうでもないかな。

実 小春ちゃんの方が知ってるかもね。直ちゃんのこと。

小春 ああ。

実 同じ家に住んでるんにね。部屋も一緒に。

小春 どうですかね。

実 何考えとんか分からんことが、ようあるけね。

小春 ああ。

実 まあ、最近に始まったことやないけど。

小春 そうですね。

実 ん？

小春 あ、いや、うちのことです。

実 小春ちゃんどこ？

小春 分からないことあるなって思っ

実 どこもそうなんかもね。

二階からドタドタと降りて来る音。 直子がマスク姿で部屋に顔を出す。

直子 何か約束しとったっけ？

小春 あ、そんなんじゃない。

直子 ああ、ふらっと遊びに来た感じ？

小春 うん。でも、忙しいみたいだから、

直子 全然。暇、暇。

実 部屋どうするん？

直子 ちゃんとするちゃ。

小春 大丈夫？

直子 大丈夫。ちょっとだけ待ってもらっていい？

小春 ごめんね。

直子 速攻やけ、速攻。

直子が部屋を出て行く。二階をドタドタと駆け上がって行く音が聞こえる。

実 小春ちゃんっち、一人っ子やったよね？

小春 はい。

実 兄弟欲しいっち思っただことある？

小春 あります。

実 あるよね。

小春 もうこの年になったら、あれですけど。

実 まあ、そうね。

小春 でも、いたら良かったなって、たまに。

実 どういう時？

小春 どういう・・・

実 どういうって難しいよね。

小春 すいません。

実 いやいや、私もどういいうち言われたら困るもん。

小春 すいません。

実 こう、漠然とよね。

小春 そうですね。

実 漠然と兄弟がおっいたらいいな、つち感じよね？
小春 はい。
実 分かる、分かる。

二階から降りて来る足音がし、着替えをした大地が入って来る。

大地 ちょっと出て来るわ。

実 どこ行くん？

大地 迎え。

実 京子ちゃん。

大地 そう。

実 充実してるのー。

大地 わー、こっち（直売所）通るんか。

実 車？

大地 最悪やん。

実 おっさん達が飲みよんよ。

小春 あ、え？

直売所のドアを開け、

吉彦（声） お、飲むか？

大地（声） 飲まんちゃ。

吉彦（声） あ、お前、今年の相撲出るよ。

大地（声） 相撲？

豊（声） だけ、俺が出るちゃ。

実 何の話をしよんか。

小春 祭りですかね。

実 相撲つち言いよったけね。

小春 ああ。

実 昔は何もなくても取りよったけど。

小春 相撲？

実 暇さえあれば。

小春 そんなに？

実 おとんが好きやったし、強かったけね、相撲。

小春 そうなんですか。

実 全然勝てんの、二人とも。

小春 ああ。

実 その腹いせに兄ちゃんは大地を投げ飛ばすんよ。

小春 豊さんが？
実 コテンパンに。
小春 想像が。
実 ああいう時、兄ちゃんに勝てんっち思うようになるんやろうね。
小春 兄弟がいる家って感じですね。
実 そうやね。兄弟はずっとおったけね。
小春 はい。
実 でもね、やっぱり姉ちゃんとか妹とか、欲しかったんよね。
小春 ああ。
実 ただのないものねだりやけど。
小春 直ちゃんが。
実 そうやね。
小春 妹みたいに。
実 最初はさ、嬉しかったんよ。妹ができるっち。
小春 ああ。
実 最初は。やっぱりね、段々面倒くさくなるんよね。
小春 そうですか。
実 自分の服を間違っって着るとか。私の化粧水を勝手に使うとか。
小春 ああ。
実 自分だけの部屋やったんに、端っこの方使いやすいっち思ったら、今や私の方が端っこやけね。
小春 はい。
実 まあ、それは、私が部屋を出たけなんやけど。
小春 そうですか。
実 可哀想っち思いよったけさ、色々我慢するわけやん？
小春 可哀想。
実 子どもやったしね。
小春 はい。
実 でも段々、何でここにおるんっち思うようになってから。
小春 ……。
実 一回。あんたが来たけ、部屋が狭くなったち言ったことがあってさ。
小春 悲しい。
実 ね。今から思えばね。
小春 すいません。
実 いや、そうなんよ。言った後、後悔するぐらいなら言っなっちね。
小春 すいません。
実 何も言い返してこんしね。まあ、言い返せんこと言っっちゃったんやけど。
小春 そうですね。

実ね。普通やったら、喧嘩して終わりっちなるんかな、とか。
小春 分かんないですけど。

実 あん時の顔、今でもたまに思い出すもんね。

小春 顔。

実 何ち言うんかね、ああいう時の顔。

小春 ちよっと分かります。

実 分かる？

小春 ばあちゃんがするんで。最近。

実 渡辺のばあちゃん？

小春 痴呆になってから、お母さんが怒ったらたまにする、そういう顔。

実 ああ。

小春 何て言うんですかね、ああいう顔。

実 名前はないんやろうね。

と、そこに直売所から吉彦が出てくる。後ろから豊が入ってくる。

実 ん？

吉彦 まだ、おるやん。

豊 いいちゃ。(小春に気づき) ああ。

小春 お邪魔してます。

豊 どうも。

吉彦 小春ちゃんもおるやん。

実 何ねっちゃ。酔っ払い。

吉彦 まだ酔ってないちゃ。ほろ酔い。

実 酔っとるやん、それ。

吉彦 実ちゃん、カフェしようや、カフェ。

豊 だけ、実はいいいちゃ。

実 カフェ？

吉彦 そ。市井果樹園直営カフェ。

実 何それ。

豊 こいつが勝手に。

吉彦 豊が作って、実ちゃんがカフェして。

実 私？

豊 せんちゃ。

吉彦 そう。そしたら、ここにおいて、

豊 (口を塞ぎ) うるせえ。

吉彦 (豊の制止を振りきり) 未来のために改革をせんと。

豊 今でも十分やけ。

吉彦 立ち止まってどうするんか。前に進まんと。
豊 止まっとらんって。

吉彦 いや、この時間は止まったまま。

豊 止まってないちゃ。

実 どこがほろ酔い。

吉彦 俺、止まりそう。

豊 寝るんかちゃ。

吉彦 ちょっと横になっとく。

豊 風邪ひくちゃ。

吉彦 ちょっと。

豊 もう。(小春に)ごめんね。

小春 すいません。

豊は部屋を出て行く。

実 よう酒屋が務まるわ。

吉彦 コンビニ。

実 知っとるわ。働きよるわ。(尻を蹴る)

吉彦 ー。

実 気持ち悪。

豊は毛布を持って、部屋に入って来る。

実 いい会議やったんやね。

豊 ごめんちゃ。

実 別にいいけど。

豊が吉彦に毛布を掛ける。

吉彦 あったかい。

豊 寝ろ。

実 何、カフェっち。

豊 あ？

実 カフェするん？

豊 こいつが勝手に言い始めたん。

実 私にさせるん？

豊 だけ、こいつが勝手に。

実 何の話をしよったんか。

豊 別に。

実 (小春に) どうせ、私の悪口言いよったんよ。

小春 (困って) はい。

豊 そんなやないちゃ。

実 (自分を指差し) すぐ家、出て行くけ。

小春 (困って) ああ。

豊 それは間違っないやろ。

実 直ちゃんにさせればいいやん。

豊 は？

実 私よりちゃんとしてくれるよ。ね？

小春 どうですかね。

豊 直は、あれやろ。

実 何、あれっち。

豊 だけ・・よう分からんけど。

実 うん。

豊 ・・ちよつと違っやろ。

実 どういう意味なん。

豊 意味とかやなくて、何か。

実 この家の人間やないけ？

豊 違っちゃ。そんなん思っないわ。

実 うん。

豊 何か、そういうんで縛ったらさ、あれやん。

実 私は良くても？

豊 だけ、カフェとかせんって。

実 いいんやない？

豊 は？

実 居場所を作っっちゃたら？

豊 あ？

実 果樹園だっって、そんな人数いらんやろうし。

豊 まあ。

実 この家におりたいならやけど。

豊 居場所。

と、外から声が聞こえる。

敏子(声) ただいまー。

実 おかえり。

豊が直売所の方へ行こうとする。

実 ちよ、置いてくん。

豊 お開きにしてくるだけ。

実 ああ。

豊 言いだしっぺのくせに。

豊は直売所の方へ行く。入れ替わるように敏子が入って来る。

敏子 小春ちゃん、来とったん。

小春 お邪魔してます。

敏子 (吉彦を見て) それ、誰？

実 ヨシ君。

敏子 どしたん？

実 会議疲れ？

敏子 会議？

実 ただの酔っ払いやけど。

敏子 お母さんも疲れたー。会議。

実 おかかも？

敏子 町内会の。祭りが近いけね。

実 どこもかしこも。

敏子 あ、お母さんに会ったよ。

小春 ああ。

敏子 何か、おばあちゃんの調子があんまり良くないっち？

小春 そうですな。

敏子 そう。

小春 はい。

敏子 そうなんやね。

小春 何かありました？

敏子 え？

小春 あ、すみません。

敏子 いやいや、別に何もなんやけどね。

実 けど？

敏子 けど？

実 いや、なんやけどち言ったやん。何かあるん？

敏子 言った？

実 言ったちゃ。

敏子 何もなんよ。

小春 ・・はい。
敏子 ねえ、何も無いもんね？
小春 え？まあ。

と、そこに直子が入って来る。

直子 お待たせ。

小春 あ、うん。

直子 ああ、お帰り。

敏子 たいま。

直子 二階行こうか？

小春 ああ。

直子 ん？

実 二階がいいよ。ここ、これ（吉彦）がおって落ち着かんやろうし。

小春 はい。

直子 どしたん？

実 酔っ払い。

直子 やと思った。

小春 じゃあ、お邪魔します。

直子と小春が部屋を出て行く。

実 余計なこと言ったかな。

敏子 お母さん？

実 おかん？

敏子 え？

実 え？

敏子 あ、違った？

実 違うけど、え、やっぱ何かあるん？

敏子 いや、何かというか。

実 ん？

敏子 新嘗祭（にいなめさい）の時、

実 新嘗祭？

敏子 お祭り。

実 それは分かるけど。

敏子 終わって、みんなで新米の「飯食」食べるやろ？

実 ああ。

敏子 毎年。

実 食べるね。

敏子 あれ、小春ちゃんとのなんよ。もらいもの。

実 ああ、そうやね。

敏子 お母さんがこっち嫁いで来た時から、ずっと。

実 へえ。

敏子 ほら、夏になったら、桃を振舞うやろ？近所に。

実 そうね。

敏子 そういうのっち、お祝い事やけ。

実 うん。

敏子 で、秋になったら渡辺がお米を持って来てくれて。

実 あ、今年はもらってないっこと？

敏子 そうなんよ。

実 いや、言えばいいやん。

敏子 言えんよ。今年も米下さい、とか。

実 まあ、そうやね。

敏子 あくまでお裾分けなんやけ。

実 ああ。

敏子 けどね、向こうから米もらって、秋になったんやなっち。

実 ああ。

敏子 まだ秋が来とらんよ。

実 11月よ？

敏子 来とらんのよ、米が。

と、豊が直売所から入って来る。

豊 よう寝とるな。

敏子 あ、ちょうど良かった。

豊 ん？

敏子 あんたが一番適任やわ。

豊 え？

敏子 ちょっと、渡辺さんとこ行って来ん？

豊 何で？

敏子 何でっち、(小声で)米が来てないん。

豊 米？

敏子 いや、来てないっ言い方はあれやけど。

実 ホントよ。

敏子 お裾分けのお米。

豊 ああ。新嘗祭の時の。

敏子 そうそう。
豊 もらってないん？
敏子 だって、ちょうだいっちな言えんやろ？
豊 まあ。
敏子 お米ちょうだいっち。
実 言い方があれやけど。
豊 毎年くれよったんやろ？何も言わんでも。
敏子 そうよ。
豊 何で？
敏子 分らんちや。
豊 え？親父がおらんけ？
敏子 そんなやないと思っやけどね。
豊 そうよね。
敏子 桃はあげとるし。
豊 あげるっちな言っか、まあ、あげたけど。
実 もう買えばいいやん。
敏子 はい？
実 新米も出とるやろ？
敏子 あんたは簡単に言うけど。
実 どうせ、なくなったら買うんやけ。
敏子 ずっとそうしよったっち、それがあるやろ？
実 何なん、それっち。
敏子 23は、渡辺の新米でお祝いするっちいう。
豊 まあ、分かるけど。
敏子 ずっと続けて来たやろ？
実 どうせ、いつかは終わるんやけ。
敏子 終わらせたらダメやろ。
実 それは、こっちだけの問題やないんやん。
敏子 そうやけど。
実 こっちがどう思っっても、終わる時は終わるんよ。
敏子 でも、終わるなら終わるで、ちゃんと終わらんと、動けんやろ？
実 まあ、そうね。
敏子 だけ、ちょっと行って来てっちや。
豊 俺が？
敏子 長男やろ？
豊 いや、おかんが行けばいいやん。
敏子 私が行ったら、あれやろ。
豊 何、あれっち。

敏子 この人間やないんやけ。
豊 は？

敏子 嫁いで来とんやけ。

豊 30年以上おって、よう言っわ。

実 ホントよ。

敏子 30年おっても、他所の人間は他所の人間なん。

豊 じゃあ、俺もそうやん。

敏子 あんたは、ここで生まれたんやけ、違うちや。

豊 分からんわ。

敏子 (実に) 嫁ぐつち言うのは、そういうもんなん。

実 色々、面倒臭いですね。

豊 ホント面倒臭い。

敏子 面倒臭いこともせんといけんの。

豊 米くれとか、よう言えんわ。

敏子 言わんでいいちゃ。言わんでよ。

豊 ああ。

敏子 そんなん言ったら、付き合いにくくなるんやけ。

豊 そら、そうよ。

敏子 とりあえず、分からんけど、相撲の話でもしたらいいんよ。

豊 相撲？

敏子 何か、そっから、毎年どうのこうのっち。

豊 無理やりやろ、それは。

敏子 それはその場のそれやけ。

豊 無理無理。

と、直売所の方から大地と京子の話し声が聞こえる。

大地(声) ただいま。

敏子 おかえり。

京子(声) お邪魔します。

敏子 あ、どうぞ。

実 苦手そうやもんな。

豊 あ？

実 アドリブというか、そういうの。

豊 そうよ。

実 町コンとか。

豊 町コンは関係ないやろ。

大地と京子は部屋に入って来て、

大地 ああ。

京子 こんにちは。

豊 こんにちは。

敏子 いらっしやい。

大地 もう終わったん？（直売所を指し）あれ。

豊 （吉彦を指し）これ。

大地 わ、マジか。

京子 あ、これ、うちの母から。

京子が敏子に袋を渡す。

敏子 え、いいのに。

京子 こないだもらった桃、すごい喜んで。

敏子 あ、そう。

実 タイムリー。

大地 何？

敏子 （中を見て）お芋。

京子 何か、親戚がいっぱい送ってくれたみたいで。

敏子 ありがと、助かるわ。

京子 良かった。

敏子 いいお芋やね。

京子 はい。

実 出来た子やね。

大地 は？

実 あんたにもつたいないわ。

大地 うるせえ。

京子 全然。

敏子 お茶でも入れようか。

京子 お構いなく。

敏子 座とって。

京子 すいません。

実 さっきの大地に行ってもらったら？

敏子 はい？

実 兄ちゃんよりは適任やない？

豊 いや。

大地 何が？

実 馬鹿なふりして、お米下さいっち。

大地 馬鹿っち何か。

実 いい意味で。

大地 馬鹿にいい意味とかないけね。

実 あるちゃ。

敏子 けど。

豊 まあ、行って来るわ。

敏子 あ、行ってくれる？

豊 様子だけよ。様子だけ。

敏子 それでいいけ。

豊 ごゆっくり。

京子 あ、はい。

敏子 お茶入れてくるね。

京子 すいません。

豊と敏子が部屋を出て行く。

実 まあまあまあ。兄ちゃんやね。

大地 全然分からのやけど。

実 分からんでもいいんよ、弟は。

大地 やっぱ馬鹿にしとやろ。

実 いいやん。立派な彼女を連れて来とるんやけ。

京子 いやいや。

大地 (京子に) 絶対馬鹿にしとるけ。

実 いや、立派な彼女やん。

大地 そこやなくて。

実 じゃあ、どこ？

大地 え？いや、どこっち言うか。あの、弟は分からんでもいい、みたいな。

実 そんな知りたい？

大地 いや、知りたいとかは別にあれやけど。

実 なら、いいやん。

大地 その所詮、弟、みたいなやつがさ。

実 所詮、弟やん。

大地 弟やけど、その所詮感が、何か、ねえ？

京子 え？私。

大地 所詮やないよね？

京子 分からんけど。

実 そんな聞くのが、所詮大地よ。

大地 何か、イメージ良くないやん？
京子 そうやね。

大地 何か、(吉彦を指差し)「らういう。」

京子 ああ。

大地 ね？

京子 いや、ああっち言うのも失礼やけど。

実 まあ、それは所詮やね。

吉彦 (そのまま) 俺のことやろ。

大地 うわ、起きとったん？

吉彦 (そのまま) 俺を所詮こんなもんっちは言いようやろ？

京子 すいません。

大地 (そのまま) 誰が所詮よ。

京子 すいません。

実 水いる？

吉彦 (そのまま) 水欲しいです。

吉彦がしゃべっている途中で、実は部屋を出て行く。

大地 どんな会議をしようたん。

京子 会議？

大地 そこで会議しようたんよ。

吉彦 (そのまま) ちゃんとしようたんやけどね。

大地 そうは見えんわ。

吉彦 (そのまま) 否定はできんわ。

京子 会議とかあるんですね。

大地 (カレンダーを指し) 祭りが近いけ。

京子 23？

大地 新嘗祭っち言う、村の祭りがあるん。

京子 祝日に。

大地 そうそう。

吉彦 (そのまま) 元々はね、その祝日なんよ。

大地 何て言うん？五穀豊穡？の祭りなんよ。

京子 そういう祝日やったんやん。

大地 え、知らなかったん？

京子 うん、全然。

大地 あ、お祭りっち言っても、全然、花火とかの、そんなやないけ。

京子 ああ。

大地 すっげー、地味なん。子供会のテントとかでその辺のおいちゃん達が店しようたり。

京子 分かる、それ。
大地 あと、何か、変な儀式したり、神楽とかあって。
京子 はいはい。
大地 全然面白くないん。
京子 はっきり言うね。
吉彦 (そのまま) こういうのは、面白いかや(ないからね)。
大地 毎年、何の変化もなく。
京子 毎年行きよるんやん。
大地 ああ、まあ、一応ね、こういう家やけ。
京子 そうやね。
大地 メインイベントが相撲やからね。
京子 相撲？
大地 相撲取って、神様に感謝するっちいう。
京子 そういう伝統行事。
大地 古臭い行事よ。
京子 大ちゃんも出るん？
大地 いや、俺は出らんよ。
京子 あ、そうなん。
大地 兄貴が出るけ。
京子 お兄さんが？
大地 家に一人っち決まっとるんよ。昔から。
京子 へえ。
大地 そのくせ、人がおらんっち言いようけ、よう分からんちや。
京子 昔は多かつたんやろうね。
大地 まあ、そうなんやろうね。
吉彦 (そのまま) 出たらいいやん。
大地 出らんちや。家に一人なんやけ。
京子 でも、家に一人なんやろ？
大地 まあ。
京子 じゃあ、出れんことは(ないんやん)。
大地 だけね、あるんよ、そういう伝統が。
京子 伝統？
大地 伝統。
京子 古臭い？
大地 古臭くても、そういうもんはそういうもんなんよ。

実がお茶を持って部屋に入って来る。

実 何が古臭いん？
大地 祭りよ。
実 ああ、古臭いね。
大地 やろ？

実がテーブルにお茶を置く。

京子 すいません。
実 何？祭りに誘いよん？
大地 誘ってないちゃ。
実 全然面白くないけね、あれ。
大地 だけ、誘ってないちゃ。
京子 何か、相撲しよるっち。
実 ああ、相撲ね。
京子 はい。
実 あんなんね、何が楽しいんか知らんのやけど、
京子 ああ。
実 けど、意外と盛り上がるんよね。
京子 そうなんですか？
大地 知っとう人間ばっかやけやろ？
実 そうそう。
大地 知らん人が見たら、全然よ。
実 おいちゃん同士の因縁の対決とか。
京子 へえ。
実 あそこは世代交代したなとか。
大地 神様とかそっちのけやからね。
京子 感謝は？
大地 感謝とか全然よ。
京子 ああ。
大地 ただのガチ相撲。
実 おとんはあれやったけどね。
大地 おとんは、まあ。
京子 あれ？
実 何か、神様を背負ってっち。
京子 背負う？
実 背負うっち言うか、何ち言うんかね？
大地 よそと神様が違うけ負けれんのよ。
京子 全然分かん。

大地 だけ、大体が穀物の神様に奉納するんやけどね、
京子 うん。
大地 うちが米とかやないけ、オオカムヅミ様っち言う神様がおって、
京子 オオ？
実 桃の神様。
京子 桃。
実 (神棚を指し) あれ。
大地 何かおるんよ。そういう神様が。
京子 よう知つとるね。
大地 まあ、小さい頃から聞きよつたからね。
京子 さすが。
大地 別にそんなんやないけど。
実 小さい頃はさ、これも背負うつち言いよつて。
京子 え？
大地 どんな昔の話しよんよ。
実 出たかつたみたいでさ、相撲。
京子 そうなん？
大地 いや、相当ちつちやい時よ。
実 だけ、毎年おとんに挑戦するん。兄ちゃんと。
大地 もういいちや。
実 一回も勝てんかつたけどね。
大地 強いんちや、親父。
実 強かつたね。
京子 そうなんですな。
大地 大体、大人と子供やからね。
京子 そうやね。
大地 容赦ないんちや。大人のくせに。
実 で、兄ちゃんと修行とか言つて、ずっと相撲しよん。
京子 かわいい。
大地 子供の頃ね。
実 かわいかつたよ。いっつも泣かされて。
大地 いや、泣くつち言うか、
実 泣きよつたやん。ビービー。
大地 容赦ないんちや。兄貴も。
京子 ああ。
大地 手加減なしやけ。
実 いつからやろうね、せんくなつたの。
大地 さあ。どうやつたやか。

実 せんくなったよね。

大地 まあ、あれよ、兄貴が出るようになったけ。

実 そっか。

大地 もう、だいぶ前やけど。

実 高校生ぐらい？

大地 そうやね。それぐらい。

京子 勝ったん？

大地 え？

京子 お父さんに。

大地 勝つとらん。

京子 え？

実 引退したんよ。

京子 引退？

実 もう俺は引退するっち。

京子 引退ですか。

実 ね。引退っち何なんっち感じやけど。

京子 あ、いや。

実 スポーツ選手じゃあるまいし。ただの農園の親父が。

京子 まあ。

大地 元気なかったけね、親父。あん頃。

実 そうやったんかね。

大地 ほら、あの・・・おいちゃんが死んで。

実 ああ。

大地 おいちゃん、弟やったし。

実 そうやね。

大地 弟が行ったけ、自分が行くことも考えるやろうし。

実 どうやる。分からんけど。

大地 子供やったけどさ、何か、思ったもん。

実 うん。

大地 何っち言うん？所謂、親父が小さくなったな、みたいな。

実 偉そうに。

大地 偉そうやけど、いや、子供やったけ、そんな小さくなったなとかは思っでないけど。

実 うん。

大地 何かね・・・何やろあれ。忘れとった桃みたいな。

実 何、それ。

大地 分からん？水分が抜けて、シワシワになった、

実 それは分かるけど。

大地 (京子に) すっげえ小さくなるん。水分が無くなって、カラカラになって。

京子 うん。

大地 (握り拳を作り) こんなんよ。

実 いや、そんなんではないけど。

大地 感覚的には、こんなん。

実 お父さん、(握り拳を作り) こんなんやなかったけど。

大地 そら、親父がこんなんやったら、嫌やわ。

実 まあ、だけ、引退したんやろうけど。

大地は握った拳を、床に突き立てる。

京子 やりたかった？

大地 ん？

京子 お父さんと相撲。

大地 どうやろ。

京子 やりたくなかった？

大地 シワシワになる前やったら。

京子 ああ。

大地 一回ぐらい勝ちたかったかもね。

京子 やね。

大地 もう出来んけど。

と、そこに敏子が入って来る。手には芋。

敏子 ごめんね、お構いもせんぞ。

京子 いえ。

敏子 今ね、蒸かしよるけ、芋。

大地 ああ。

京子 すいません。

敏子 これ、いい芋やね。

京子 はい。

敏子は神棚に芋を供える。みんな、それを眺めている。

敏子 何か話よったんやない？

実 別に。

敏子 ごめんね、邪魔して。

京子 いえ。

大地 芋。

敏子 芋？ああ、（神棚を見て）せっかく頂いたけね。
大地 そうやね。

敏子 好きやったんよ、芋。

京子 そうなんですか。

敏子 何ならね、桃より。

京子 え？

敏子 ねえ、おかしいよね。

京子 そんなこと。

敏子 好きなら、芋作ればいいんに。

大地 桃と芋は全然違うやろ。

敏子 そうなん？

大地 多分。

敏子 お母さん、そんなん分からんけね。

大地 いや、俺も分からんけど。

敏子 口だけ出して、あとはお父さんが決めるんやけ。

実 口も出さんやったやん。

敏子 まあ、そうやね。

実 一回も。

敏子 一回ぐらいは出しとるやろ。

実 見た事ないわ。

敏子 出しても聞かんけね。あの人は。

実 まあ。

敏子 あの人っち言うか、この家はみんなやね。

大地 は？

敏子 みんな、人の言うこと聞かんもん、（実に）ね。

実 もんとか言われたら、何も言えんわ。

敏子 京子ちゃん、気をつけりいね。

京子 え？

敏子 これも一緒やけ。

大地 そんなことないちゃ。

敏子 あります。

大地 全然そんなことないけ。

京子 いや、あるある。

大地 え？あるかね。

と、そこに直子と小春が入って来る。手にはカセットテープ。

直子 ラジカセあつたっけ？

実 ラジカセ？

直子 ああ、京子ちゃん。

京子 お邪魔してます。

直子 良きに、良きに。

直子は押入れを開け、ラジカセを探している。

敏子 (直子に) 芋蒸かしよるけ。

直子 芋？

敏子 京子ちゃんが持って来てくれて。

直子 ありがと。芋、好きなん。

敏子 (京子に) あ、桃食べる？

京子 いいんですか？

敏子 桃しかないけど。

京子 嬉しいです。

敏子 小春ちゃんも食べるやろ？

小春 すいません。

敏子が部屋を出て行く。

直子 おお、あった。汚(きたな)。

実 どしたん？それ。

小春 押入れの中にあって。

実 私のやないん？

直子 あたしの。

実 さっき片付けたんやなかったん？

○直子 (吉彦に) ああ、もう邪魔。

○実 忘れとった。

○吉彦 (起き上がり) 忘れんでよ。

○実 ごめん。

○吉彦 水、待ったんに。

○実 起きとんなら、言えばいいやん。

○吉彦 横になったらスッキリした。

●大地 あ、その家の小春ちゃん。

●京子 こんにちは。

●小春 こんにちは。

●大地 彼女。

●小春 ああ。

●京子 倉田です。
●大地 京子ちゃん。
●小春 よろしくお願ひします。
●京子 ああ、よろしくお願ひします。
大地 渡辺さんとことは、付き合ひが長いんよ。
京子 へえ。
大地 ほら、兄貴が行つとる。
京子 ああ。
小春 豊さん？
大地 うん、今行つとるよ。
直子 え？何で？
大地 知らんけど。
吉彦 米もらいに行つたんよ。
実 馬鹿。
吉彦 え？
小春 お米？
吉彦 あ。
実 やっぱ所詮、馬鹿やね。
吉彦 受け入れます。
小春 (直子に) お米？
直子 いや、あたしは分からんけど。
実 ほら、毎年くれよるやろ？新米。
小春 はい。
実 今年がね、まあ、もらってないっつう言つか。
小春 そうなんですか？
大地 そういうこと。
実 まあ。
小春 すいません。
実 いや、もらうつもりのこつちがあれなんやけど。
小春 でも、ばあちゃん、あげたって思ってるかも。
実 え？
小春 ばあちゃんの時間、動いてないみたいで。
実 時間？

と、ラジカセから流れて来たのは「だんご兄弟。」

直子 あ、あ。

ポリユームを小さくする。

直子 ごめん。

大地 え？何それ。

直子 何やか。・・・だんご3兄弟？

大地 古。

直子 あ、やっぱ、そうやん。

大地 何で、だんご3兄弟。

直子 好きやったん。

実 こっち話しよるやん。

直子 分かっどるっちゃ。

京子 懐かしい。

大地 みんな同世代やけね。

吉彦 俺外した？

大地 俺ら、桃3兄弟っち言われよったけね。

京子 何、それ。

大地 流行ったら、すぐそんな言うけ。

京子 小学生？

大地 そうそう。

直子 まだあっちにおったなー。

一同 ……。

直子 カセットテープやし。

実 だんごの話はいいちゃ。

大地 ああ。

実 何の話やったつけ？お米？

小春 ばあちゃん。

実 ああ、そうやん、そうやん。

と、そこに豊が帰って来る。

豊(声) ただいま。

敏子(声) おかえり。

大地 帰って来た。

直子 一番上の長男。

小春 すいません。

と、直子はラジカセの音楽を止め、次のテープを入れる。
同時に、小春が部屋を出て行く。

実 あ。

大地 誰かが余計なこと言っけ。気にしとるやん。

吉彦 すんません。

実 まあ、でも、これで解決するやろ。

吉彦 ん？

実 米の話。

大地 米騒動。

京子 米騒動？

実 いつの時代よ。

吉彦 ずっと、お米は大事なんよ。

と、ラジカセから音が出る。「謎」が流れる。

大地 古。

直子 カセットやけ。

大地 時間が止まっとるわ。

直子 テレビの横で取りよった。

吉彦 やるやる。

実 つーかさ、さっきも思ったけど。

直子 何？

実 一曲目の選曲、何なん？

直子 は？

実 一曲目にだんご3兄弟、入れるかね。

直子 いいやん。

大地 安室とか、宇多田とか。

直子 友達は聞きよったわ。

大地 聞いてないん？

直子 一人っ子っちそんなもんちゃ。

と、そこに豊と小春が入って来る。小春は桃を持っている。

大地 おかえり。

豊 たいま。

実 解決した？

豊 ああ、うん。

小春 母に言っときます。

実 そっという解決。

小春 すいません。

直子 何で。

実 そう、買えばいいんやけ、ホントは。

小春 いや。

実 終わらせたくないとか。どっかで終わるんやけ。

小春 終わる。

実 いや、終わるっちゆうか、何？この風習が。

小春 ああ。

実 あげて、もらつての。終わるか知らんけど。

豊 (笑って) 親父に間違えられたわ。

大地 え？

豊 夏実くんっち。

大地 親父。

豊 桃ありがとっち。

直子 桃。

豊 豊ですっち言っても、全然。

小春 すいません。

豊 いや、もう、分からんくなつとるんやろうね。

小春 はい。

豊 何かね、・・・ちよっと・・・きつかった。

吉彦 まあまあ。

豊 生まれた時から、ずっと、ねえ、あれやったんに。

ラジカセから流れている「謎」が終わろうとしている。

豊の言葉を聞きながらも、何となく次の曲が気になり始めている一同。
次の曲はやはりコナンの「願い事ひとつだけ」。

ちよっと笑ってしまう人、曲を思い出している人。気にしていない人。

吉彦 もうコナンはいいやろ。

直子 またやったね。

吉彦 何なん、コナンループ。

直子 好きやったん。

吉彦 何か、こうモヤモヤしとるのがコナンのせいな気がしてきた。

直子 関係ないやろ。

吉彦 終わり、終わり。

吉彦がカセットの停止ボタンを押す。音が止まる。

豊 それ、何なん。
直子 ん？ああ。

直子はカセットテープを取り出し、次のを入れる。

実 また掃除？散らかしよったんよ。

豊 掃除。

吉彦 こないだもしよらんかった？

直子 掃除ぐらいするやろ。

吉彦 そんな掃除してどうするん？

直子 別に。

吉彦 俺の部屋とかゴチャゴチャよ。

大地 想像できる。

吉彦 まあ、想像通りよ。

大地 威張るところやないけね。

吉彦 もうね、ゴチャゴチャ。

直子 だけ整理したいん。

豊 ん？

直子 ゴチャゴチャしとるけ。

豊 何で？

直子 ・ ・ 何でやろうね。

直子がラジカセの再生ボタンを押す。少しの無音。

吉彦 ん？

大地 また録音？

と、ラジカセから男の声と女の笑い声。続いて、子供の声。

男 どっから歌えばいいんよ。

女 (笑っている)

子 声が入る。

男 せーのっち言っつてよ。

子 じゃあ、せーの。

三人 ♪ハピバースデー

直子がラジカセの停止ボタンを押す。

直子 何、これ。恥ずい、恥ずい。
小春 直ちゃん？

直子 え？いつ？全然分からん。わー、すっこい、心臓がバクバク言いよう。

吉彦 お、どれどれ。

直子 馬鹿やないん。

一瞬の間。

吉彦 すんません。

京子 お父さん？

大地 と、おばちゃん。

直子 そうやない？いや、声聞いても全然分からんわ。

豊 分かるよ。

直子 ねえ、分かるね。覚えとるもんやね。

吉彦 分かるんかい。

直子 分かるよ。あー、怖い、怖い。

吉彦 怖くはないけど。

直子 怖いよ、いきなり、自分の声がするんやもん。

大地 自分の。

直子 恥ずかしいやん。そんなん。

実 まあ。

直子 ラベルぐらい貼っとってよ。小学生のあたし。

大地 そうやね。

直子 いきなりで、動揺するやろ。

吉彦 (カセットテープの入れ物を見て) 雑に入れとったな。

直子 いや、知らんやん。こんなことになる、っち言っか、こんな風に聞くとか。

京子 若かったね、声。

大地 ああ。

京子 お父さん。

直子 若いんよ。

京子 うん。

直子 けど、死ぬちょっと前やからね。

京子 ああ。

直子 わー、死ぬとか言っちゃった。桃ちょうだい。

小春 ああ、うん。

京子 桃。

直子 邪気払いせんと。

直子が桃を口に入れる。

直子 小春も食べべり。
小春 ・・うん。

その姿を眺めている一同。

大地 兄貴。

豊 ん？

大地 ちょっととき、相撲せん？

豊 は？

直子 何、いきなり。

大地 いきなりっち思うやろ？

豊 いや、思うよ。

大地 いきなり、今、そう思ったん。

豊 は？

大地 今、兄貴と相撲しとかんとつち。

京子 大ちゃん？

豊 全然分からのやけど。

吉彦 やれやれ。

豊 え？

吉彦 挑戦状よ。

豊 ちよ、お前やれや。

吉彦 そんなん意味ないやろ。

豊 は？

実 はい、どいて。みんな。

みんながテーブルから少しだけ離れる。

実 直ちゃん、持って。

直子 え？うん。

実と直子がテーブルを奥に持って行く。

豊 マジで？

大地 この辺が土俵ね。

豊 は？

大地 そうやったやろ？

豊 懐かし過ぎるわ。

大地 俺だって、先に進まんと。

吉彦 行け、行け。

大地 (直子に) 行司やってよ。

直子 あたし？

大地 ほら。

直子 女よ？

吉彦 土俵やないんやけ。

直子 ヨシ君が、

吉彦 指名されたんやろ。

直子 もう。

大地 手加減なしやけ。

豊 ああ。

大地 せんやろうけど。

豊 やるからには、せんわ。

二人が土俵と思しき場所に立つ。姿勢を整える。

行司の直子は二人の間に入り、

直子 見合って見合って、はっけよーい、のこった。

二人は相撲を取る。豊が勝つことが望ましいが、勝敗はあまり関係ない。負けた方は、もう一番を願い出る。その度に行司をする直子。

小春は豊よりの応援。京子は大地よりの応援。

ただただ相撲を楽しむ吉彦と、桃を食べながら戦況を眺める実。

取り組みが進むにつれて、二人の戦いに熱がこもり、応援にも熱が帯びて来る。息を切らしている二人。取り組みの最中、敏子が芋を持って来る。

敏子 騒がしいっち思ったら。

実 ああ。

敏子 懐かしいことしよるね。

実 前に進むんっち。

敏子 はい？

実 蒸かし芋？

敏子 ああ、食べる？

実 うん。

直子 あ、ずるい。

敏子 食べたたら？

直子 小春と京子ちゃんも。

小春 え？ああ。

京子 頂きます。

吉彦 俺にも声掛けてよ。

実 いる？

吉彦 欲しい。

一同は蒸かし芋を食べながら、美味しいなど感想を行っている。
と、やっていた取り組みに決着がつく。

豊 ・みんな飽きとるぞ。

大地 やね。

豊 まだやる？

大地 とりあえず、芋食う？

豊 そうやな。

大地 まだやるけど。

豊 こうなったらヤケよ。

大地 神社行く？

豊 お。

大地 いいやろ。

豊 もう土俵出来とるか。

実 土俵？

大地 狭いと力が発揮できん。

豊 よう言つわ。

大地 いい勝負になつとるやろ？

豊 まだまだやけど。

大地 はいはい。

実 ようやるわ。

大地 いただきます。

豊 ありがとうね。

京子 いえ。

二人は芋を食べる。

大地 うま。

豊 うん。

京子 蒸かし方がいいんよ。

実 そんなないちゃ。

敏子 あります。

実 あるん？

敏子 ないけど。

実 は？

直子 甘いね。

小春 うん。

直子 ホクホク。

吉彦 秋っち感じですか。

一瞬の間。

吉彦 静かになるの止めてくれんやか？

豊 行くか。

大地 うし。

敏子 食べてからに、

豊 暗くなる前に。

実 は？

大地 勝負つけんとね。

直子 ついとるやん。

大地 こっからよ。

京子 私は？

大地 すぐそこやけ、行く？

京子 うん。

豊 ヨシ。

吉彦 ん？

豊 行司。

○吉彦 え？いや。

○豊 今度は土俵やけね。

○直子 はい、よろしく。

●京子 じゃあ、ちよっと。

●敏子 行ってらっしゃい。

●京子 行ってきます。

豊と大地と京子が外へ出て行く。

吉彦 行ってきます。

実 行ってらっしゃい。

吉彦 酒が、まだ。

吉彦が外へ出て行く。

直子 応援行っちゃったなら？

小春 え？

直子 京子ちゃんも行ったし。

小春 ああ。

直子 ユタ君、応援団で。団やないけど。

小春 直ちゃんは？

直子 ー、気が向いたら行く。

小春 うん。お邪魔しました。

敏子 ーい。

小春が外へ出て行く。

敏子 一気に静かになったね。

実 そうやね。

敏子 いつまでも子供やね。

実 おかんから見たらね。

敏子 そうやね。

実 そうよ。

敏子 もう芋いらん？

実 二個も行けんわ。

敏子 直ちゃんは？

直子 大丈夫。

敏子 ーん。

敏子が部屋を出ようとするど、

直子 おばちゃん。

敏子 ーん？

直子 おばちゃん・・・あー、何でもないや。

敏子 え？

直子 何もなかった。

敏子 何、それ。

直子 ごめん、ごめん。

敏子 芋欲しかった？

直子 芋はいらん。

敏子 はいはい。

敏子が部屋を出て行く。

二人は残りの芋を食べている。

実 意外と面白かったね。

直子 ん？

実 相撲。

直子 面白いよ、相撲。

実 は神棚に目線をやる。

実 ・・家、出るん？

直子 出るよ。

実 あ、そ。

直子 いつか分からんけど、多分。

実 ああ。

直子 いつか。

実 いつかね。

直子 実ちゃんもやる？

実 私は相変わらずやけ。

直子 まあ、そうか。

実 まあ、そうよ。

直子 あたしが出たら、部屋やりたい放題やね。

実 先に出たいけど。

直子 あたしが先なら。

実 そうやね。

直子 良かったね。

実 良かったわ。

直子 ね。

実 ホント、良かった。

直子 ん。

実 だけ、いつ出てもいいし、あれなら、いつ帰って来てもいいし。

直子 ああ。

実 好きにしたらいいよ。

直子 うん。

実 この家の人間は、人の言う事聞かんらしいけ。

直子 聞かんね。

実ね。

直子 ・ ・ 聞かんかもね。

二人は芋を食べる。

実 ちよつと兄弟ゲンカを見てくるか。

直子 うん。

実 次、いつ見れるか分からんし。

直子 そうやね。

実 次あるかも分からんし。

直子 分からんよ。

実 行く？

直子 後で行くわ。

実ん。

実が外へ出て行く。

一人になった直子は、芋を食べながら、ラジカセに入っているテープを巻き戻す。キュルキュルとテープが巻き戻る音が聞こえる。

やがて、巻き戻しが終わり、テープを取り出し、ラジカセを押し入れに片付ける。

直子は、ペンを手に取り、カセットテープのラベルに文字を書き、貼る。

入れ物に納めると、桃を一つ食べ、二階に上がって行く。

おわり